よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などは
ホームページをご活用ください。 **http://www.sony.co.jp/support**

FAX（共通） 0120-333-389

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

この説明書は、再生紙を使用しています。

Sony Corporation Printed in Japan

http://www.sony.net/

4-156-597-**01** (1)

SONY®

ビデオ
プロジェクター

取扱説明書

VPL-VW85

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 **電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。**

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の
取り扱いかたを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、
製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、
いつでも見られるところに必ず保管してください。

安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品は、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあり、危険です。
事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

４～９ページの注意事項をよくお読みください。

定期点検をする

５年に１度は、内部の点検を、ソニーの相談窓口にご相談ください（有料）。

故障したら使わない

すぐに、ソニーの相談窓口にご連絡ください。

万一、異常が起きたら

- 煙が出たら
- 異常な音、においがしたら
- 内部に水、異物が入ったら
- 製品を落としたりキャビネットを破損したときは

❶ 電源を切る。
❷ 電源コードや接続コードを抜く。
❸ ソニーの相談窓口に連絡する。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

注意　火災　感電

高温　破裂　手を挟まれないよう注意

行為を禁止する記号

接触禁止　禁止　分解禁止

水ぬれ禁止　ぬれ手禁止

行為を指示する記号

指示　プラグをコンセントから抜く　アース線を接続せよ

目次

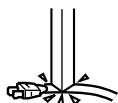
⚠警告

火災

感電

下記の注意を守らないと、火災や感電により死亡や大けがにつながることがあります。

電源コードを傷つけない

禁止

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となることがあります。
- 設置時に、製品と壁やラック(棚)などの間に、はさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、電源コードが傷んだら、ソニーの相談窓口に交換をご相談ください。

指定された電源コード、接続ケーブルを使う

注意

取扱説明書に記されている電源コード、接続ケーブルを使わないと、火災や感電、故障の原因となることがあります。

内部を開けない

分解禁止

内部には電圧の高い部分があり、キャビネットや裏ぶたを開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となることがあります。内部の調整や設定、点検、修理はソニーの相談窓口にご相談ください。

光源用ランプ交換は光源用ランプが充分に冷えてから行う

高温

電源を切った直後は光源用ランプが高温になっており、さわるとやけどの原因となることがあります。光源用ランプ交換の際は、電源を切ってから 1 時間以上たって、充分に光源用ランプが冷えてから行ってください。

内部に水や異物を入れない

禁止

水や異物が入ると火災や感電の原因となることがあります。
万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続ケーブルを抜いて、ソニーの相談窓口にご相談ください。

排気口、吸気口をふさがない

禁止

排気口、吸気口をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。また、手を近づけるとやけどをする場合があります。風通しをよくするために次の項目をお守りください。
- 壁から 30 cm 以上離して設置する。
- 密閉された狭い場所に押し込めない。
- 布などで包まない。
- 立てて使用しない。

レンズの前に遮蔽物を置かない

禁止

投影中にレンズのすぐ前で光を遮らないでください。遮光した物に熱による変形など影響を与える可能性があります。

お手入れの際は、電源を切って電源プラグを抜く

プラグをコンセントから抜く

電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

プロジェクターの上に水が入ったものを置かない

禁止

内部に水が入ると火災や感電の原因となります。

長時間の外出、旅行のときは、電源プラグを抜く

プラグをコンセントから抜く

安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

電源プラグおよびコネクターは突きあたるまで差し込む

指示

まっすぐに突きあたるまで差し込まないと、火災や感電の原因となります。

幼児の手の届かない場所に置く

禁止

本体の高温部でやけどしたりする場合があります。
お子様がさわらないようにご注意願います。

床置き、または天井つり金具を使った天井つり以外の設置をしない

禁止

それ以外の設置をすると火災や大けがの原因となることがあります。

天井への取り付け、移動は絶対に自分でやらない

禁止

天井への取り付け、移動は必ずソニーの相談窓口にご相談ください（有料）。
天井の強度不足、取り付け方法が不充分のときは落下し大けがの原因となります。必ずソニー製のプロジェクターサスペンションサポートをご使用ください。特約店の方は、取り付けを安全に行うために、必ず本機、およびプロジェクターサスペンションサポートの取付説明書の注意事項をお読みください。

電源コードのアース端子からはずした絶縁キャップなどの小さな部品は、幼児が飲み込む恐れがあるので、手の届かないところに保管する

指示

万一誤って飲みこんだときは、窒息する恐れがありますのでただちに医師にご相談ください。

安全アースを接続する

アース線を接続せよ

アース接続は必ず電源プラグを電源につなぐ前に行ってください。また、アース接続を外す場合は必ず電源プラグを電源から切り離してから行ってください。

⚠注意　下記の注意を守らないと、けがをしたり周辺の物品に損害を与えることがあります

不安定な場所に設置しない

禁止

ぐらついた台や棚の上、あるいは傾いたところに設置すると、倒れたり落ちたりしてけがの原因となることがあります。また、設置・取り付け場所の強度を充分にお確かめください。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグの抜き差しをすると、感電の原因となることがあります。

水のある場所に置かない

水ぬれ禁止

水が入ったり、濡れたり、風呂場などで使うと、火災や感電の原因となります。雨天や降雪中の窓際でのご使用や、海岸、水辺でのご使用は特にご注意ください。

排気口付近に物を置かない

禁止

投影中は排気口付近が高温になるため、やけどや変形、事故の原因となります。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や虫の入りやすい場所、直射日光が当たる場所、熱器具の近くに置かない

禁止

火災や感電の原因となることがあります。

スプレー缶などの発火物や燃えやすいものを排気口やレンズの前に置かない

禁止

火災の原因となることがあります。

雷が鳴り出したら、電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因となります。

アジャスター調整時に指を挟まない

手を挟まれないよう注意

アジャスター調整は慎重に行ってください。アジャスターに指を挟み、けがの原因になることがあります。

レンズをのぞかない

禁止

投影中にプロジェクターのレンズをのぞくと光が目に入り、悪影響を与えることがあります。

定期的に内部の掃除を依頼する

注意

長い間掃除をしないと内部にほこりがたまり、火災や感電の原因となることがあります。1 年に 1 度は、内部の掃除をソニーの相談窓口にご相談ください(有料)。
特に、湿気の多くなる梅雨の前に掃除をすると、より効果的です。

排気口周辺には触れない

高温

排気口周辺は光源用ランプの熱で温度が高くなっています。手などを触れると火傷の原因となります。

光源用ランプについての安全上のご注意

プロジェクターの光源には、内部圧力の高い水銀ランプを使用しています。高圧水銀ランプには、次のような特性があります。

- 衝撃や、使用時間の経過による劣化などにより大きな音をともなって破裂したり、不点灯となって寿命が尽きることがあります。
- 個体差や使用条件によって、寿命に大きなバラツキがあります。指定の時間内であっても破裂、または不点灯状態になることがあります。
- 交換時期を越えると、破裂、不点灯やチラつきの発生の可能性が高くなります。
「ランプ／フィルターを交換してください。」というメッセージが表示されたときには、光源用ランプが正常に点灯している場合でも速やかに新しい光源用ランプと交換してください。

警告

破裂

高温

下記の注意事項を守らないと、破裂・発熱・液漏れにより、死亡や大けがなどの人身事故になることがあります。

光源用ランプ交換は光源用ランプが充分に冷えてから行う

高温

電源を切った直後は光源用ランプが高温になっており、さわるとやけどの原因となることがあります。光源用ランプ交換の際は、電源を切ってから 1 時間以上たって、充分に光源用ランプが冷えてから行ってください。

⚠注意

破裂

下記の注意事項を守らないと、けがをしたり周辺の物品に損害を与えることがあります。

光源用ランプが破裂したときはすぐに交換を依頼する

光源用ランプが破裂した際には、プロジェクター内部やランプハウス内に破片が飛散している可能性があります。 **ソニーの相談窓口に光源用ランプの交換と内部の点検を依頼**してください。また、排気口よりガスや粉じんが出たりすることがあります。
ガスには水銀が含まれていますので、万が一吸い込んだり、目に入ったりした場合は、けがの原因となることがあります。
速やかに医師にご相談ください。

光源用ランプを傾けて持たない

光源用ランプを傾けて持つと、光源用ランプの破損時に光源用ランプの破片が飛び、けがの原因となることがありますので、水平に持ってください。

使用済み光源用ランプを破棄する場合

本機の光源用ランプの中には水銀が含まれています。使用済み光源用ランプは、地域の蛍光管の廃棄ルールに従って廃棄してください。

電池についての安全上のご注意

ここでは、本機での使用が可能なソニー製乾電池についての注意事項を記載しています。

万一、異常が起きたら

・電池の液が目に入ったら

すぐにきれいな水で洗い、ただちに医師の治療を受ける。

・煙が出たら

ソニーの相談窓口に連絡する。

・電池の液が皮膚や衣服に付いたら

すぐにきれいな水で洗い流す。

・バッテリー収納部内で液が漏れたら

よくふき取ってから、新しい電池を入れる。

破裂

高温

下記の注意事項を守らないと、破裂・発熱・液漏れにより、**死亡**や**大けが**などの人身事故になることがあります。

・ 乾電池は充電しない。
・ 火の中に入れない。ショートさせたり、分解、加熱しない。
・ 指定された種類の電池を使用する。

⚠注意

破裂

下記の注意事項を守らないと、破裂・液漏れにより、**けが**をしたり周辺の**物品**に**損害**を与えたりすることがあります。

・投げつけない。
・使用推奨期限内（乾電池に記載）の乾電池を使用する。
・⊕ と ⊖ の向きを正しく入れる。
・電池を入れたまま長期間放置しない。
・新しい電池と使用した電池は混ぜて使わない。
・種類の違う電池を混ぜて使わない。
・水や海水につけたり濡らしたりしない。

⚠注意

指定以外の電池に交換すると、破裂する危険があります。
必ず指定の電池に交換してください。
使用済みの電池は、国または地域の法令に従って処理してください。

電池の使用について

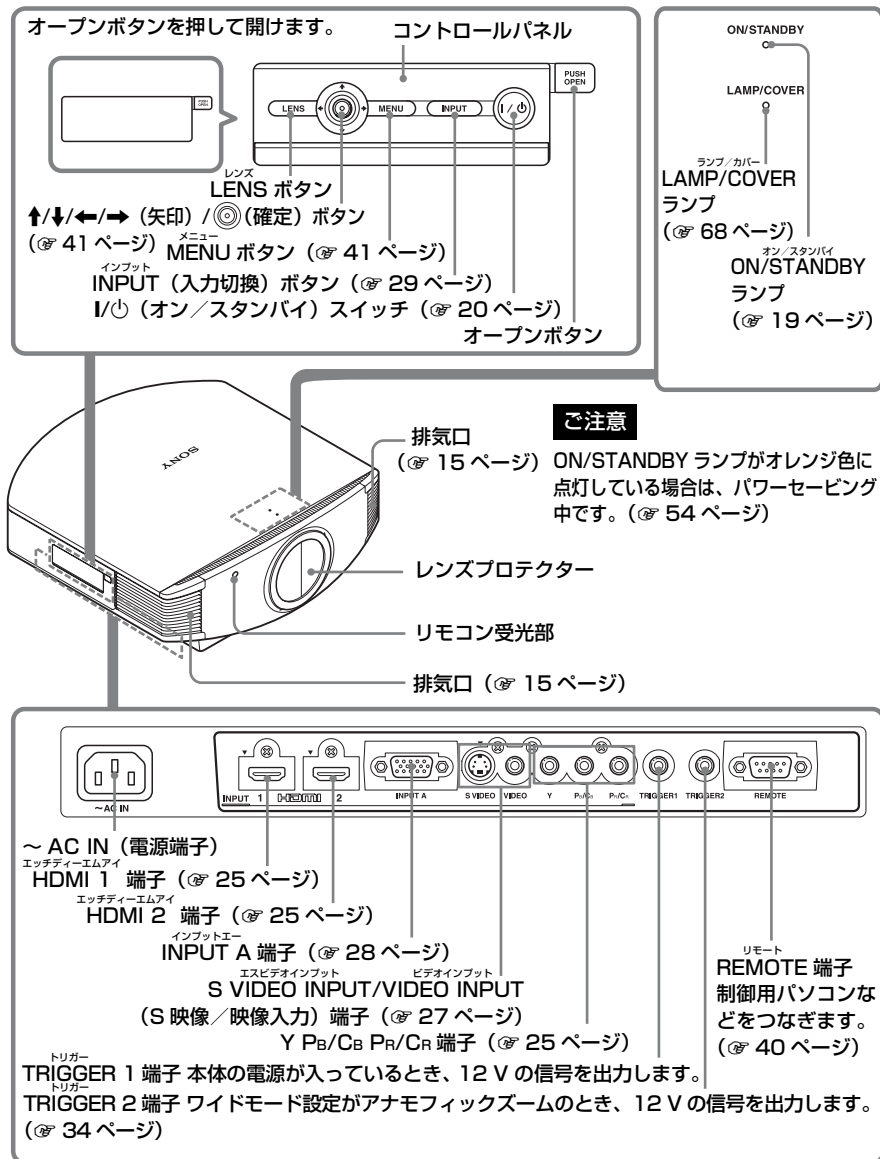
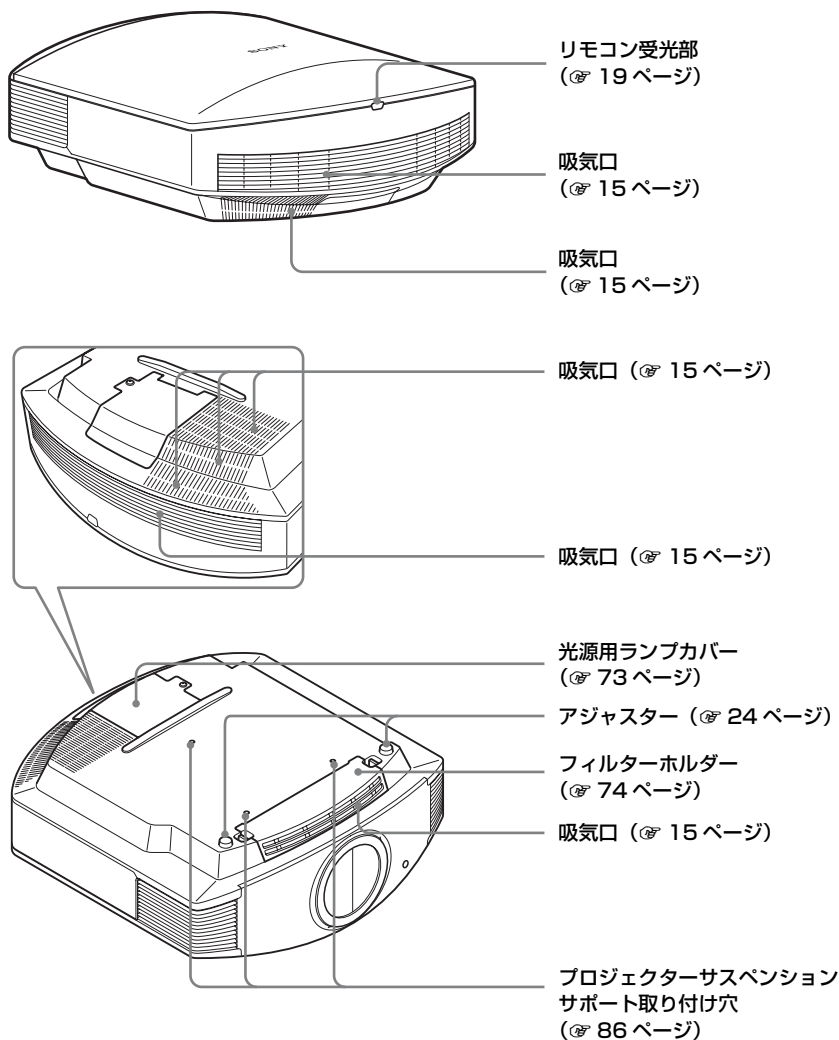
リモコンには、単 3 形乾電池が 2 本必要です。
破裂の原因となりますので、指定の電池（マンガン電池、またはアルカリ電池）以外は使わないでください。

各部の名前

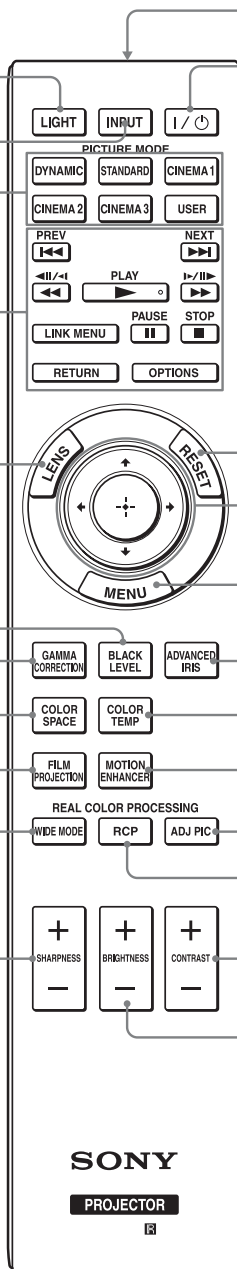
本機前面／右側面

本機のコントロールパネルのボタンはリモコンの同じ名前のボタンと同じ働きをします。

本機後面／底面

リモコン受光部
（☞ 19 ページ）
吸気口
（☞ 15 ページ）
吸気口
（☞ 15 ページ）
吸気口（☞ 15 ページ）
吸気口（☞ 15 ページ）
光源用ランプカバー
（☞ 73 ページ）
アジャスター（☞ 24 ページ）
フィルターホルダー
（☞ 74 ページ）
吸気口（☞ 15 ページ）
プロジェクターサスペンション
サポート取り付け穴
（☞ 86 ページ）

リモコン

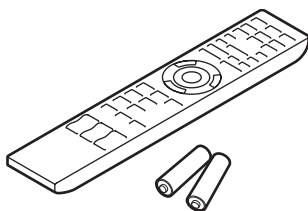
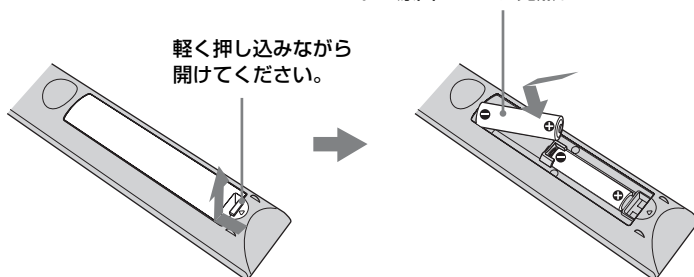
ライト
LIGHT ボタン
押すとリモコンのボタンが光ります。
インプット
INPUT（入力切換）ボタン（☞ 29 ページ）
ピクチャーモード
PICTURE MODE ボタン（☞ 36 ページ）
ブラビアリンク対応機器操作ボタン（☞ 31 ページ）
レンズ
LENS ボタン（☞ 19 ページ）
ブラックレベル
BLACK LEVEL ボタン（☞ 37 ページ）
ガンマコレクション
GAMMA CORRECTION ボタン（☞ 37 ページ）
カラースペース
COLOR SPACE ボタン（☞ 37 ページ）
フィルムプロジェクション
FILM PROJECTION ボタン（☞ 37 ページ）
ワイドモード
WIDE MODE ボタン（☞ 33 ページ）
シャープネス
SHARPNESS ＋／－ ボタン（☞ 48 ページ）
リモコン発光部
I/⏻（オン／スタンバイ）スイッチ（☞ 20 ページ）
リセット
RESET ボタン（☞ 41 ページ）
↑/↓/←/→（矢印）/ ⊕（確定）ボタン（☞ 41 ページ）
メニュー
MENU ボタン（☞ 41 ページ）
アドバンストアイリス
ADVANCED IRIS ボタン（☞ 37 ページ）
カラーテンパラチャー
COLOR TEMP ボタン（☞ 37 ページ）
モーションエンハンサー
MOTION ENHANCER ボタン（☞ 37 ページ）
アジャストピクチャー
ADJ PIC ボタン（☞ 38 ページ）
アールシーピー
RCP （リアルカラープロセッシング）ボタン（☞ 39 ページ）
コントラスト
CONTRAST ＋／－ ボタン（☞ 47 ページ）
ブライトネス
BRIGHTNESS ＋／－ ボタン（☞ 47 ページ）
LIGHT
INPUT
I / ⏻
PICTURE MODE
DYNAMIC
STANDARD
CINEMA 1
CINEMA 2
CINEMA 3
USER
PREV
NEXT
PLAY
PAUSE
STOP
LINK MENU
RETURN
OPTIONS
LENS
RESET
MENU
GAMMA CORRECTION
BLACK LEVEL
ADVANCED IRIS
COLOR SPACE
COLOR TEMP
FILM PROJECTION
MOTION ENHANCER
REAL COLOR PROCESSING
WIDE MODE
RCP
ADJ PIC
SHARPNESS
BRIGHTNESS
CONTRAST
SONY
PROJECTOR

接続と準備

この章では、プロジェクターとスクリーンを置く位置を決めたり、プロジェクターで映す機器との接続のしかたなどを説明します。

付属品を確かめる

箱を開けたら、付属品がそろっているか確かめてください。

・リモコン（1 個）と
　単 3 形乾電池（マンガン）（2 本）

・電源コード（1 本）
・ImageDirector3 CD-ROM
　（1 枚）
・取扱説明書（本書）
・保証書（1 部）

リモコンに電池を入れるには

リモコンの取り扱いについてのご注意

・落としたり、踏みつけたり、中に液体をこぼしたりしないよう、ていねいに扱ってください。
・直射日光が当たるところ、暖房機具のそばや湿度が高いところには置かないでください。

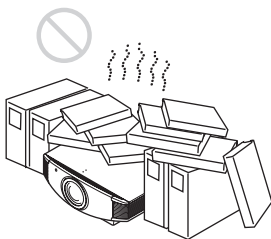
手順 1：本機を設置する

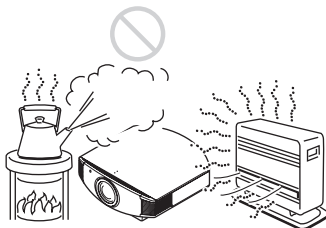
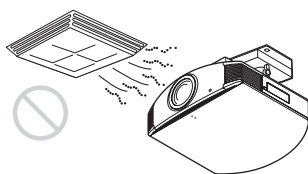
プロジェクターは、ビデオ機器などからの映像をスクリーンに映します。本機はレンズシフトにより、置き場所を広範囲に選べて簡単に美しい映像をご覧いただけます。

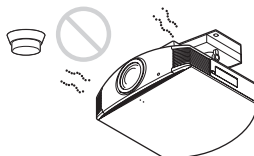
設置の前に

設置に適さない場所

次のような場所には置かないでください。故障や破損の原因となります。

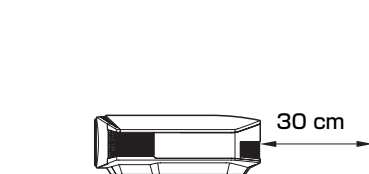
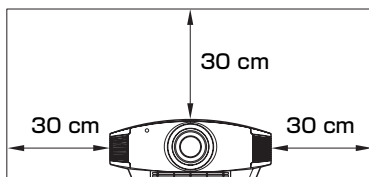
風通しの悪い場所

本機の周囲から 30 cm 以内には物を置かないようにしてください。

温度や湿度が非常に高い場所

空調の冷暖気が直接当たる場所

結露や異常温度上昇により、故障の原因となることがあります。

熱感知器や煙感知器のそば

感知器が誤動作する原因となることがあります。

ほこりが多い場所、たばこの煙などが直接入る場所

壁から離して設置

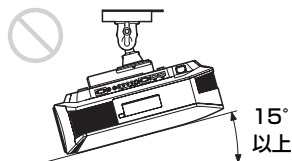
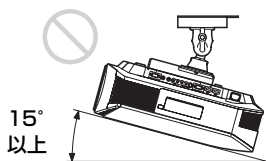
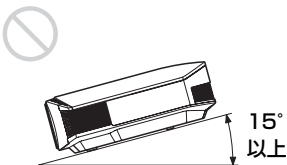
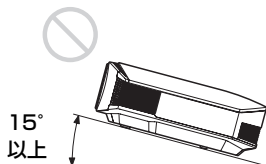
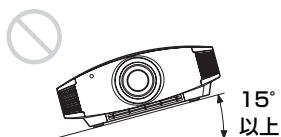
本機の性能信頼性のために、壁から 30 cm 以上離して設置してください。

使用に適さない状態

次のような状態では使用しないでください。

吸気口や排気口を覆う

ちょっと一言

吸気口、排気口の位置について詳しくは、「各部の名前」（☞ 10 ページ）をご覧ください。

本機を前後左右に傾ける

プロジェクターを 15 度以上傾けたり、床置きおよび天井つり以外での設置でお使いになることは避けてください。色むらや光源用ランプの信頼性を著しく損ねる原因となることがあります。

標高の高い場所でご使用になる場合

海抜 1,500 m 以上の場所でのご使用に際しては、「初期設定」メニューの「冷却設定」を「強」にしてください（☞ 53 ページ）。そのまま使用すると、部品の信頼性などに影響を与える恐れがあります。

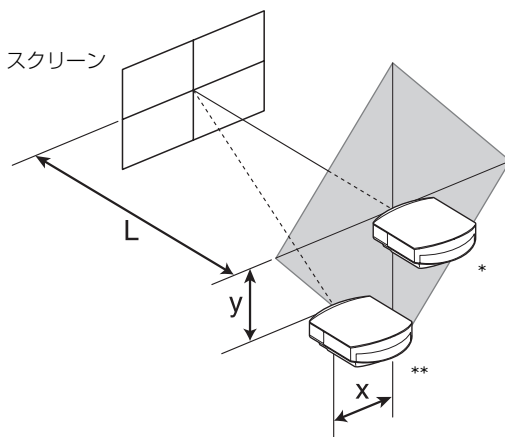
警告

設置の際には、容易にアクセスできる固定配線内に専用遮断装置を設けるか、使用中に、容易に抜き差しできる、機器に近いコンセントに電源プラグを接続してください。
万一、異常が起きた際には、専用遮断装置を切るか、電源プラグを抜いてください。

設置位置を決める

お使いになるスクリーンの大きさ（投影サイズ）やレンズシフト使用の有無によって、スクリーンとプロジェクターとの位置関係が変わります。プロジェクターのレンズ中心からスクリーンまでの距離を投射距離といいます。

1 スクリーンとプロジェクターを置く位置を決める。

図の の範囲内にレンズの中心が入るようにプロジェクターを置くと、画質を損なうことなく投影することができます。次ページの表の L、x、y の距離を目安に、スクリーンとプロジェクターを置く位置を決めてください。

* レンズシフトを使用しない設置位置（x=0, y=0）
** レンズシフト（x,y）を使用した設置位置の例

L：スクリーンからプロジェクターのレンズ先端までの距離
x：スクリーンの中心から、プロジェクターのレンズ中心までの水平距離
y：スクリーンの中心から、プロジェクターのレンズ中心までの垂直距離

天井つりで設置する場合は、「天井つり設置」（☞ 86 ページ）をご覧ください。
レンズシフトについて詳しくは「手順 2：画面の位置を調整する」（☞ 19 ページ）をご覧ください。

16:9 スクリーンサイズ使用時

投影サイズ SS（型）	40	60	80	100	120	150	200	250	300
（mm）	1016	1524	2032	2540	3048	3810	5080	6350	7620
L 最小値	1201	1825	2448	3072	3695	4631	6189	7748	9307
L 最大値	1840	2782	3723	4664	5605	7017	9371	11724	14077
x	0	0	0	0	0	0	0	0	0
y	324	486	648	809	971	1214	1619	2024	2428
x	44	66	89	111	133	166	221	277	332
y	259	389	518	648	777	971	1295	1619	1943
x	89	133	177	221	266	332	443	553	664
y	194	291	389	486	583	728	971	1214	1457
x	133	199	266	332	398	498	664	830	996
y	130	194	259	324	389	486	648	809	971
x	177	266	354	443	531	664	886	1107	1328
y	65	97	130	162	194	243	324	405	486
x	221	332	443	553	664	830	1107	1384	1660
y	0	0	0	0	0	0	0	0	0

単位：mm

設置位置の計算方法
L 最小値 = 31.1781 × SS − 46.1543
L 最大値 = 47.0644 × SS − 42.3308
y = −1.463 × x (mm) + 8.0942 × SS

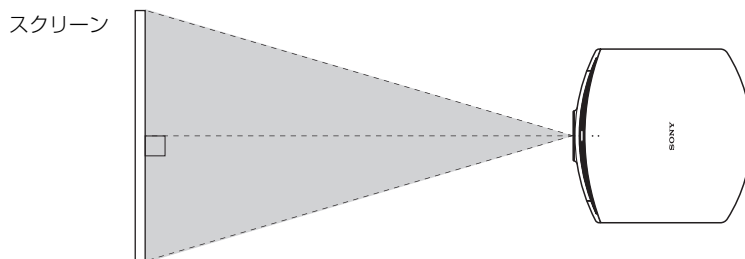
4:3 スクリーンサイズ使用時

投影サイズ SS（型）	40	60	80	100	120	150	200	250	300
（mm）	1016	1524	2032	2540	3048	3810	5080	6350	7620
L 最小値	1480	2243	3006	3770	4533	5677	7585	9493	11401
L 最大値	2262	3414	4566	5718	6870	8598	11478	14357	17237
x	0	0	0	0	0	0	0	0	0
y	396	594	792	991	1189	1486	1981	2477	2972
x	54	81	108	135	163	203	271	339	406
y	317	475	634	792	951	1189	1585	1981	2377
x	108	163	217	271	325	406	542	677	813
y	238	357	475	594	713	892	1189	1486	1783
x	163	244	325	406	488	610	813	1016	1219
y	158	238	317	396	475	594	792	991	1189
x	217	325	433	542	650	813	1084	1355	1626
y	79	119	158	198	238	297	396	495	594
x	271	406	542	677	813	1016	1355	1693	2032
y	0	0	0	0	0	0	0	0	0

単位：mm

設置位置の計算方法
L 最小値 = 38.1569 × SS − 46.1543
L 最大値 = 57.5992 × SS − 42.3308
y = −1.463 × x (mm) + 9.9060 × SS

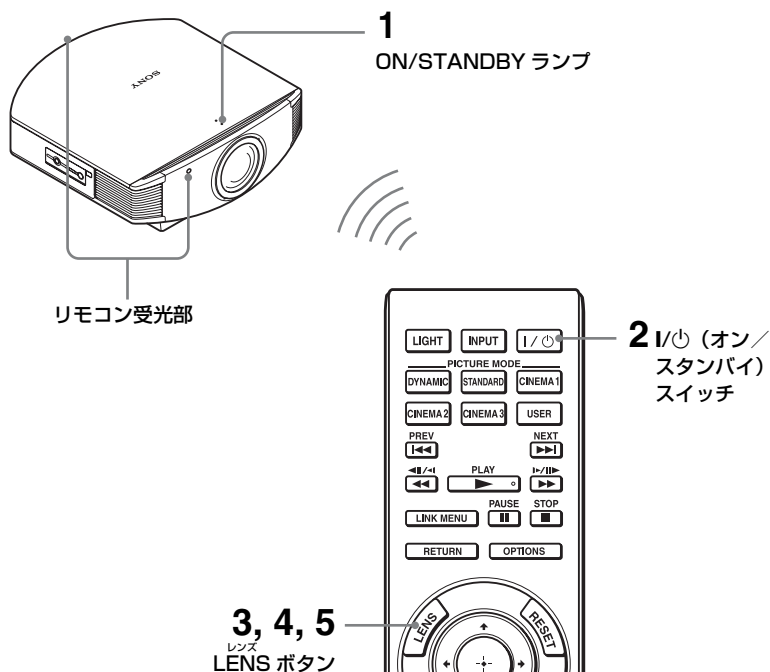
2 **レンズがスクリーンに平行になるようにプロジェクターを置く。**

上から見た図

3 **スクリーンに画像を映して画面の位置を調整する。****（☞ 19 ページ）**

ご注意

表面に凹凸のあるスクリーンを使用すると、プロジェクターとスクリーン間の距離やズーム倍率によっては、まれに画面上に縞模様が現れることがあります。これはプロジェクターの故障ではありません。

手順 2：画面の位置を調整する

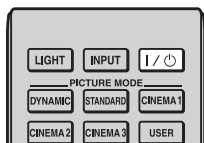
スクリーンに画像を映して画面の位置を調整します。

ちょっと一言

本体側面の I/⏻（オン／スタンバイ）、INPUT（インプット）、LENS（レンズ）、MENU（メニュー）、↑/↓/←/→/◎（ジョイスティック）ボタンは、リモコンの同じ名前のボタンと同じ働きをします。

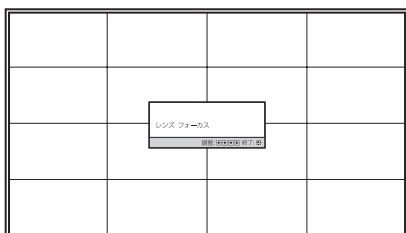
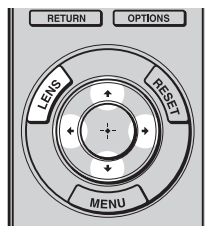
ご注意

設置場所によってはリモコンで操作できないことがまれにあります。その場合は、リモコンをスクリーンに向けて操作してください。

1 電源コードを本機につないでから、電源プラグをコンセントに差し込む。

ON/STANDBY（オン／スタンバイ）ランプが赤く点灯し、スタンバイ状態になります。

しばらく（数十秒）
点滅し点灯（緑色）

2 I/⏻（オン／スタンバイ）スイッチを押して電源を入れる。

レンズプロテクターが開きます。
ON/STANDBY ランプが緑色に点滅したあと、点灯します。
点滅中は画面に「起動中です。」と表示されます。

3 LENS ボタンを繰り返し押してレンズフォーカス調整画面（パターン画面）を表示し、↑/↓/←/→ボタンで画面のピントを合わせる。

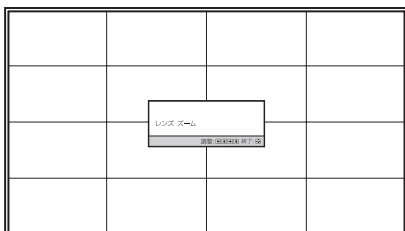
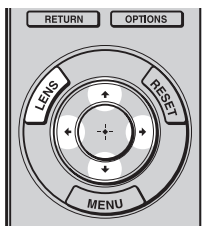
LENS ボタンを押すたびに、レンズ調整画面が順番に表示されます。

レンズフォーカス → レンズズーム → レンズシフト → レンズフォーカス

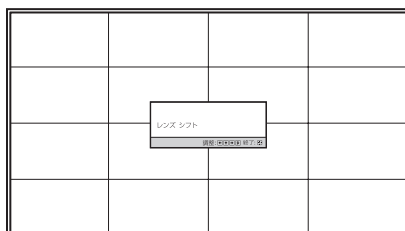
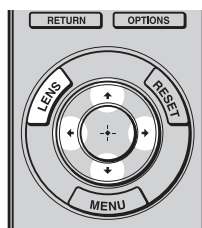
ちょっと一言

- 「 設置設定」メニューの「レンズコントロール」が「切」に設定されている場合は、レンズズーム調整、また次のレンズフォーカス調整ができません。（☞ 58 ページ）
  「 機能設定」メニューの「テストパターン」が「切」に設定されている場合は、「パターン画面」が表示されません。（☞ 57 ページ）
- テスト信号は 1 分間表示されます。また、 ボタンを押すと、いつでもテスト信号を消すことができます。

ご注意

レンズズーム、レンズフォーカスの調整は、リモコンまたは本体のコントロールパネルのボタンで行ってください。レンズを直接手で回すことは破損や故障の原因となりますので、絶対におやめください。

4 LENS ボタンを繰り返し押してレンズズーム調整画面（パターン画面）を表示し、↑/↓/←/→ ボタンで画面の大きさを合わせる。

↑/→ ボタンを押すと、画面は大きくなります。

↓/← ボタンを押すと、画面は小さくなります。

5 画面の位置を調整する。

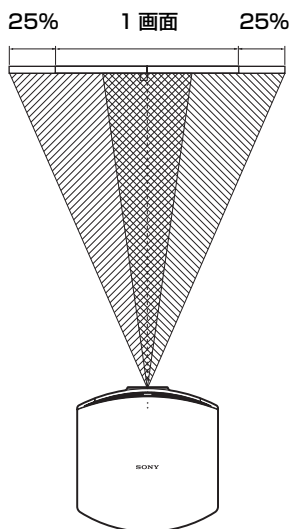
LENS ボタンを繰り返し押してレンズシフト調整画面（パターン画面）を表示し、↑/↓/←/→ ボタンで最適な画面の位置を調整する。

ちょっと一言

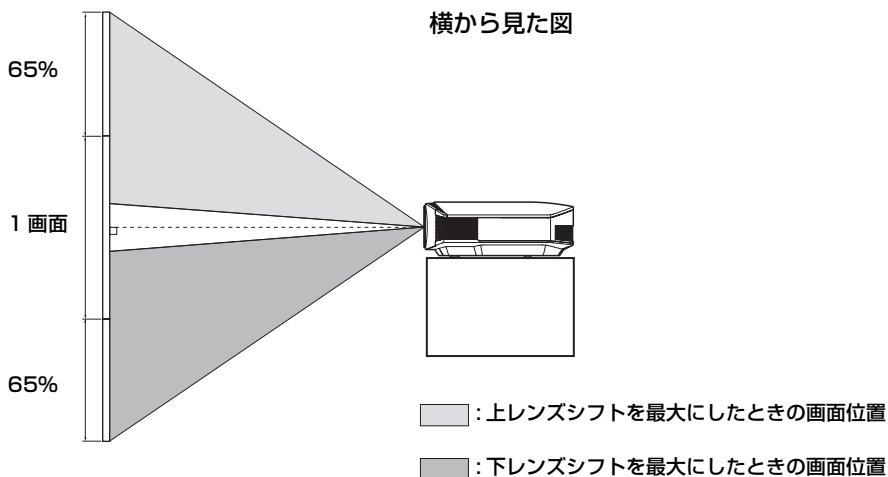
- 「設置設定」メニューの「レンズコントロール」が「切」に設定されている場合は、位置調整ができません。（☞ 58 ページ）
  「機能設定」メニューの「テストパターン」が「切」に設定されている場合は、「パターン画面」が表示されません。（☞ 57 ページ）
- テスト信号は 1 分間表示されます。
  また、ボタンを押すと、いつでもテスト信号を消すことができます。

左右の位置を合わせるには

⬅/➡ ボタンを押す。

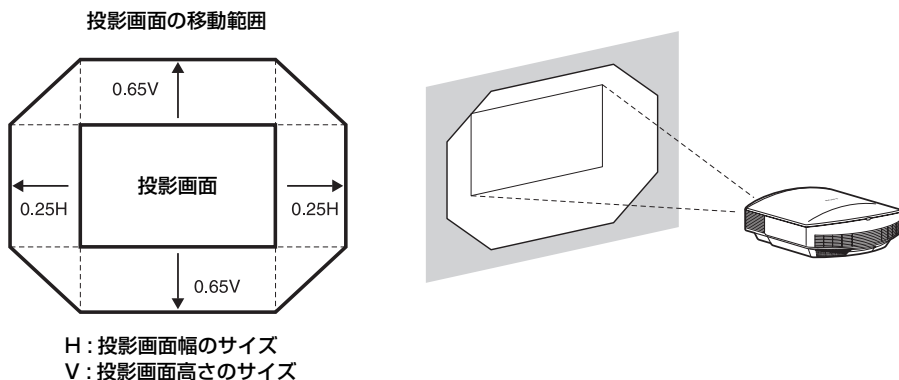
レンズの中心から左右に、それぞれ画面幅の最大 25% 画面ずつ投影画面を移動できます。

上下の位置を合わせるには

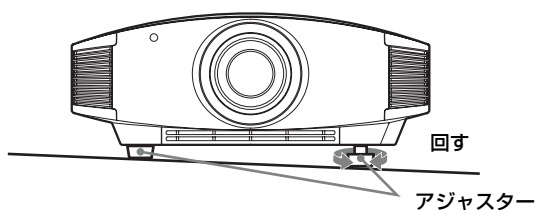
⬆/⬇ ボタンを押す。

レンズの中心から上下に、それぞれ画面高さの最大 65% 画面ずつ投影画面を移動できます。

ご注意

投影画面の移動は、下図のような 8 角形の範囲内でのみ調整できます。関連して、「設置位置を決める」（☞ 16 ページ）もご覧ください。

投影画面の移動範囲

H : 投影画面幅のサイズ
V : 投影画面高さのサイズ

設置面の傾きを調整するには

プロジェクターを置く台などが水平でない場合は、アジャスターを使って調整できます。

ご注意

・本体を垂直方向に傾けすぎると、投影画面が台形に歪みますのでご注意ください。
・アジャスターを回しているとき、手を挟まないようご注意ください。

手順 3：機器をつなぐ

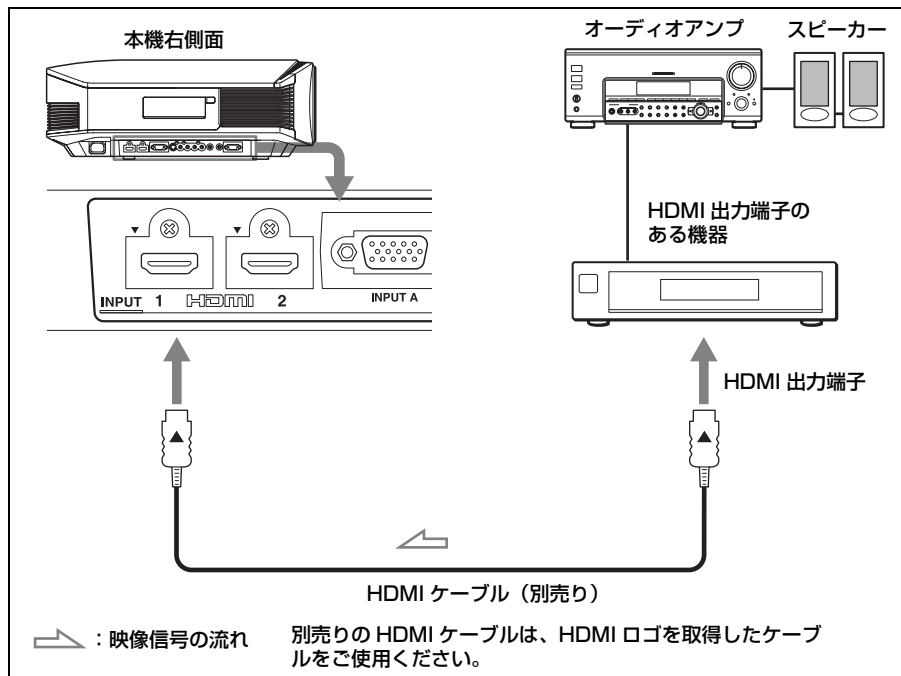
接続するときは

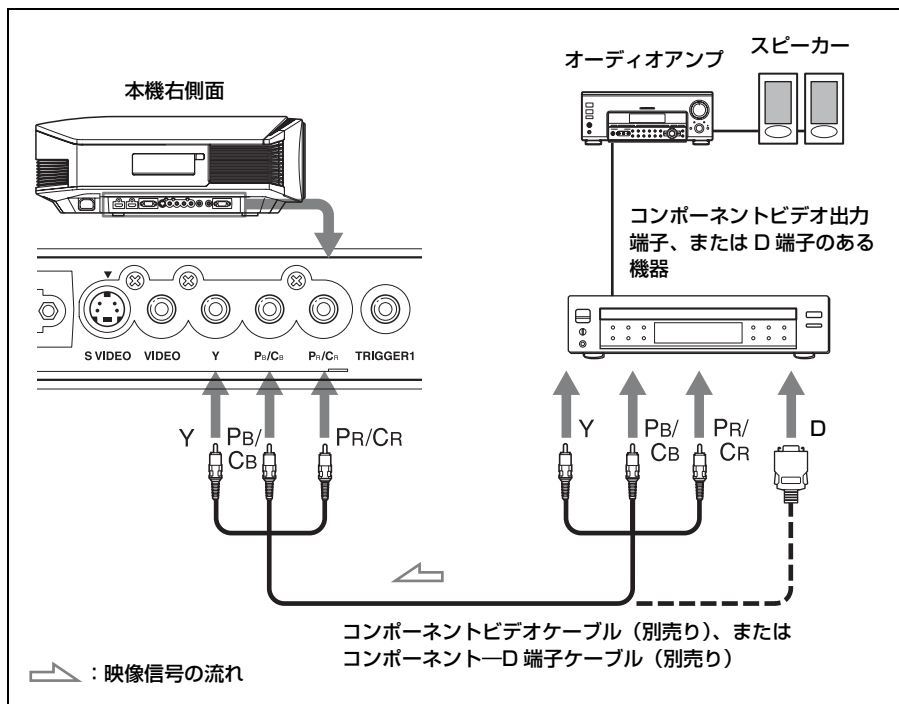
・各機器の電源を切った状態で接続してください。
・接続ケーブルは、それぞれの端子の形状に合った正しいものを選んでください。
・プラグはしっかり差し込んでください。不充分な接続は動作不良、画質不良の原因になります。抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。
・接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

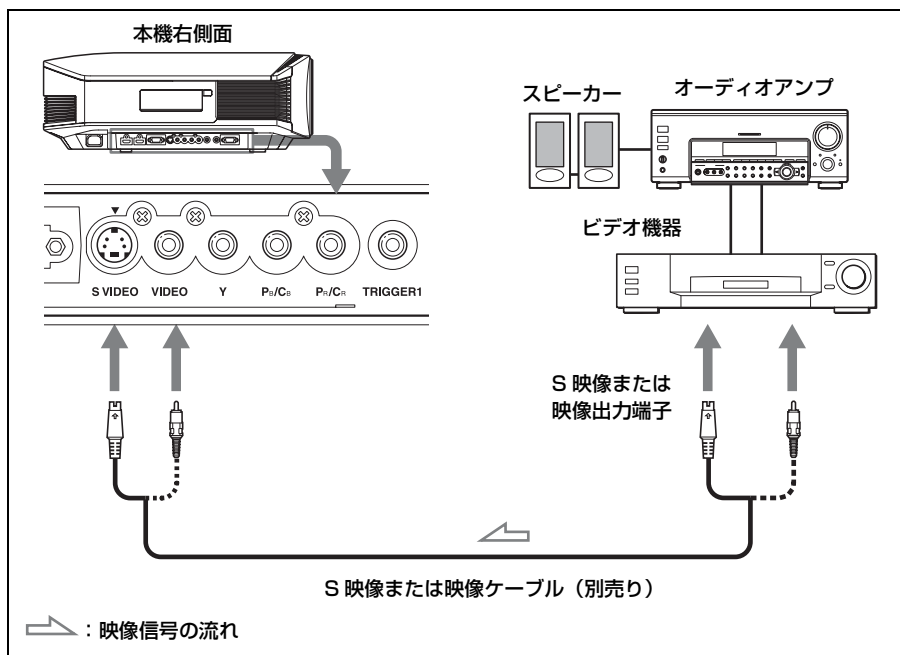
ビデオ機器をつなぐ

HDMI 出力端子のある機器をつなぐ場合

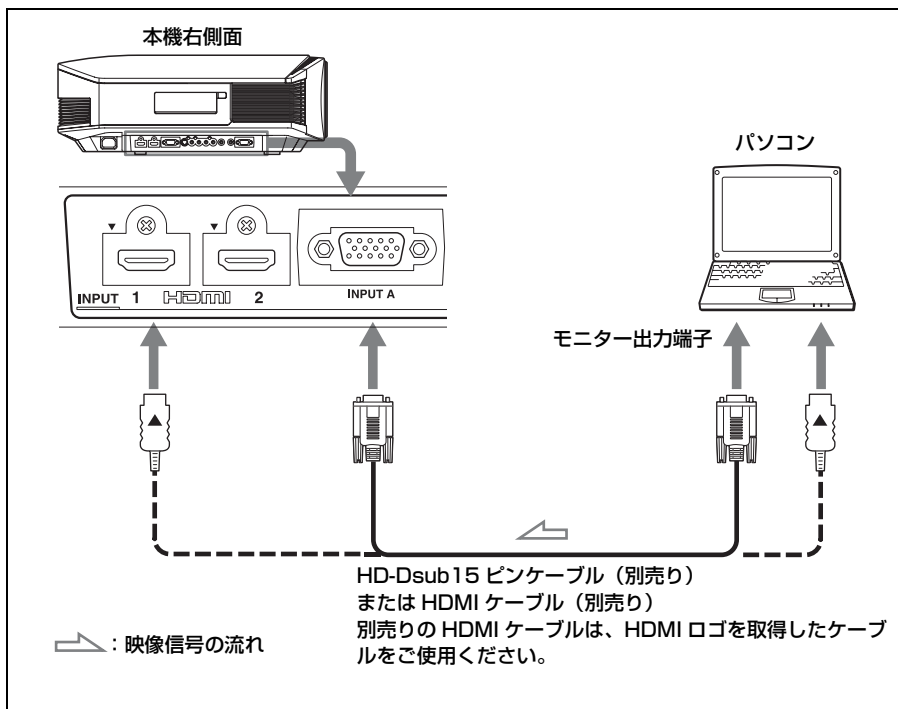
HDMI 出力端子のある DVD プレーヤー／レコーダー、ブルーレイディスク（BD）プレーヤー／レコーダー、PS3® などは、本機の HDMI 入力端子につなぐとより高品質の映像をお楽しみいただけます。さらに、HDMI 機器制御対応機器であれば、それぞれの機器間で連動した操作ができるようになります。詳しくは「機能設定」メニュー（☞ 55 ページ）および「HDMI 機器制御について」（☞ 63 ページ）をご覧ください。

ご注意

・HDMI ケーブルをつなぐ際は、本機端子の上部にある ▼ とケーブル端子部の ▲ が向かい合うように接続してください。
・HDMI ケーブルでつないだ機器の映像がきれいに映らない場合は、つないだ機器の設定を確認してください。

コンポーネントビデオ出力端子、または D 端子のある機器をつなぐ場合

S 映像端子または映像端子のあるビデオ機器をつなぐ場合

コンポーネント出力端子のない DVD プレーヤー／レコーダー、ハードディスクレコーダー、ビデオデッキ、またはレーザーディスクプレーヤーなどをつなぎます。

ちょっと一言

よりよい画質でご覧いただくために、S VIDEO INPUT（S 映像）端子につなぐことをおすすめします。
つなぐ機器に S 映像出力端子がない場合は、VIDEO INPUT（映像）端子につないでください。

パソコンをつなぐ

ちょっと一言

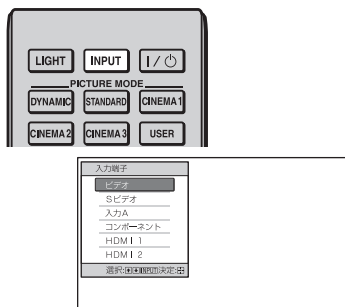
HD-Dsub15 ピンケーブルをつなぐ場合は、「 初期設定」メニューの「入力 A 信号種別」で「オート」または「コンピューター」を選んでください。入力信号が正しく表示できない場合は「コンピューター」を選んでください。（☞ 54、70 ページ）

ご注意

・HDMI ケーブルをつなぐ際は、本機端子の上部にある ▼ とケーブル端子部の ▲ が向かい合うように接続してください。
・ノート型のパソコンで、出力信号をパソコンの液晶ディスプレイと外部モニターの両方に出力するように設定すると、本機に正しく映像が出ない場合があります。この場合は、外部モニターのみに信号が出力されるように、パソコンを設定してください。パソコンの設定については、パソコンのメーカーへお問い合わせください。
・HDMI ケーブルでつないだ機器の映像がきれいに映らない場合は、つないだ機器の設定を確認してください。

見る

この章では、プロジェクターにつないだ DVD プレーヤーなどの映像をスクリーンに映して見るときの操作を説明します。また、お好みに合わせた画質でご覧になる操作も説明しています。

スクリーンに映像を映して見る

例：本機の VIDEO INPUT 端子につないだビデオの画像を見る

1 本機と、本機に接続した機器の電源を入れる。

2 INPUT ボタンを押して、スクリーンに入力端子選択パレットを表示させる。

3 スクリーンに映したい機器を選ぶ。

INPUT ボタンを繰り返し押すか、↑/↓/ ⊕（確定）ボタンで映したい機器を選びます。

画像を見たい機器	選択する画面表示
本機の VIDEO INPUT 端子につないだ機器	ビデオ
本機の S VIDEO INPUT 端子につないだ機器	S ビデオ
本機の INPUT A 端子につないだ機器	入力 A*
本機の Y PB/CB PR/CR 端子につないだ機器	コンポーネント
本機の HDMI 1 端子につないだ機器	HDMI 1
本機の HDMI 2 端子につないだ機器	HDMI 2

* 入力する信号によって「初期設定」メニューで「入力 A 信号種別」を設定してください。「オート」に設定していて信号が正しく表示されない場合は、入力信号に合わせて設定してください。（☞ 54、62 ページ）

ちょっと一言

- 「機能設定」メニューの「オート入力サーチ」が「入」に設定されている場合は、入力端子選択パレットには現在入力信号のある入力端子だけが表示されます。
- 「初期設定」メニューの「画面表示」が「切」に設定されている場合は、入力端子パレットは表示されません。INPUT ボタンを押すと、順に入力端子が切り替わります。
- 「機能設定」メニューの「HDMI 機器制御」が「入」に設定されている場合は、HDMI 1 端子または HDMI 2 端子につないだ機器の操作と連動して、自動的に入力端子に切り換わります。ただし、つないだ機器が HDMI 機器制御に対応している場合に限ります。

HDMI 入力時のご注意

本機は、最適な画質となるように、HDMI 接続機器の RGB ダイナミックレンジを HDMI 規格に合わせています。

　動画信号入力時：　リミテッド（16-235）
　コンピューター信号入力時：　フル（0-255）

HDMI 規格からはずれた信号が入力されたときに、以下の症状が出る場合があります。

・動画信号入力時に、映像の暗い部分や明るい部分の階調がつぶれたり文字がかすれる場合があります。この場合、つないだ機器の RGB ダイナミックレンジをリミテッド（16-235）に切り換えてください。この切り換えができないときは、本機の「 画質設定」メニューで「明るさ」と「コントラスト」、または「シャープネス」を調整してください。（☞ 47、48 ページ）

* コンピューター信号入力時に、文字がかすれる場合があります。この場合、「 画質設定」メニューの「シャープネス」を調整してください。（☞ 48 ページ）（* 1,920 × 1,080、1,280 × 720 の信号のとき）

電源を切る

1 I/⏻（オン／スタンバイ）スイッチを押す。

「パワーオフしますか？」というメッセージが表示されます。

2 メッセージが消える前に I/⏻（オン／スタンバイ）スイッチをもう一度押す。

レンズプロテクターが閉じます。指や物を挟まないように注意してください。
ON/STANDBY ランプが緑色に点滅し、本機内部の温度を下げるために、ファンが回り続けます。はじめは早い間隔で点滅します。この間は再び I/⏻（オン／スタンバイ）スイッチを押してもランプは点灯しません。

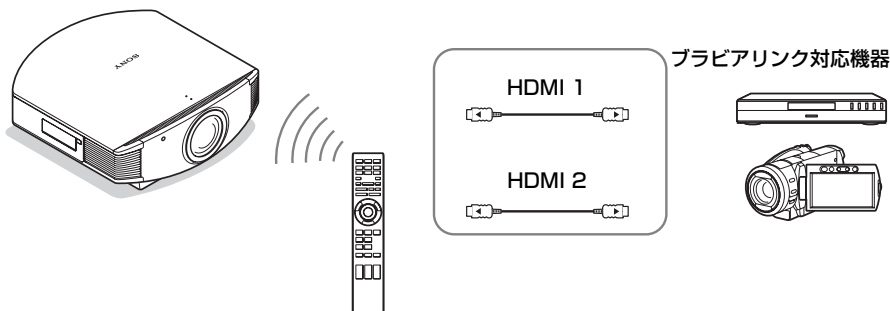
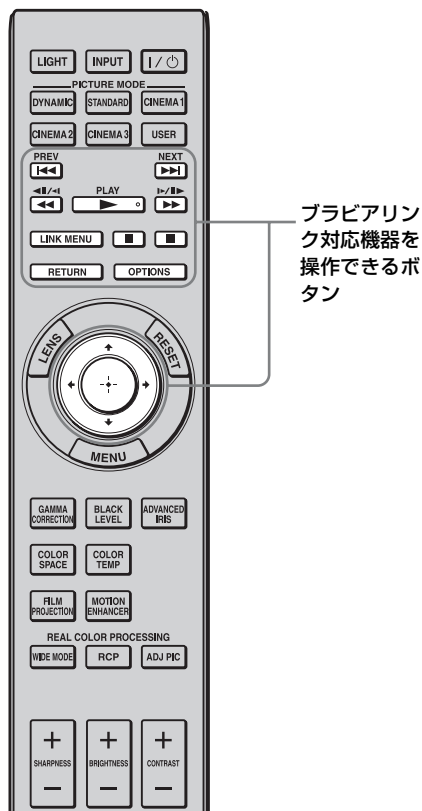
ご注意

ランプの点滅中は、電源コードを抜かないでください。

ファンが止まり、ON/STANDBY ランプが緑色の点滅から赤色の点灯に変わります。

以上で電源が切れました。電源コードを抜くことができます。

上記の手順のかわりに I/⏻（オン／スタンバイ）スイッチを約 1 秒押したままにしても電源が切れます。

本機リモコンでブラビアリンク対応機器を操作する

本機のリモコンで、HDMI 1、2 入力端子につないだブラビアリンク対応機器を直接操作できます。操作できる機器は、映像視聴中の機器 1 台だけです。
ブラビアリンク対応機器を操作するには、本機とつないだ機器側でそれぞれ HDMI 機器制御の設定がされている必要があります。（☞ 55 ページ）

再生、停止などの操作をする

映像視聴中に、⏮、◀◀、▶、⏭、▶▶、❚❚、■ ボタンを押す。
再生、停止など、視聴中の機器の基本的な操作ができます。

視聴中の機器のメニューを表示し操作する

映像視聴中に LINK MENU ボタンを押す。
視聴中の機器の操作メニューが表示されます。
↑/↓/←/→/ ⊕ 、RETURN ボタンで項目を選んで操作します。

ご注意

本機のメニューが表示されている状態では、本機のリモコンでのブラビアリンク対応機器操作はできません。

OPTIONS ボタンを使って操作する

1 ブラビアリンク対応機器の映像視聴中に、OPTIONS ボタンを押す。

接続機器操作画面が表示されます。

2 ↑/↓/ ⊕ ボタンで操作したい項目を選ぶ。

選んだ項目の画面が表示されます。↑/↓/←/→/ ⊕ ボタンでメニューの操作や項目を選んでください。

ブラビアリンク対応機器へ入力切り替えをする

1 ブラビアリンク対応機器以外の映像視聴中に、LINK MENU ボタンを押す。

認識機器の選択画面が表示されます。*1

2 ↑/↓ ボタンで機器名を選んで、⊕ ボタンを押す。

選んだ機器の電源が入り、本機の入力が切り換わります。*2

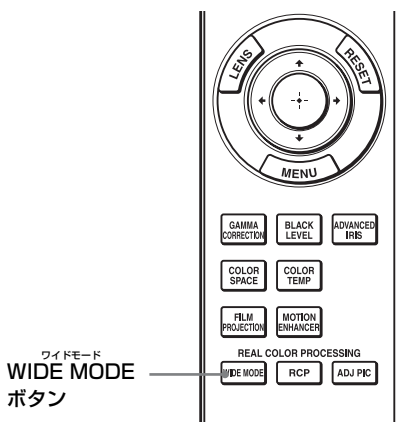
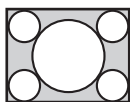
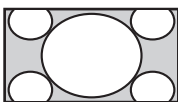
*1 HDMI 1、2 入力端子につないだ HDMI 機器制御に対応している機器のみ表示されます。コンポーネント入力端子などにつないだ機器は表示されません。また、HDMI 機器制御に対応していない機器は表示されません。AV アンプは表示されません。

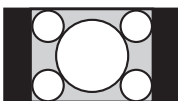
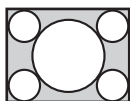
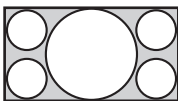
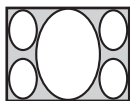
*2 電源が入るまで数分かかる機器もあります。

ご注意

- ブラビアリンクに対応している機器のみ本機のリモコンで操作できます。
- 操作できる機能は機器によって異なります。
- 操作できる機能については、それぞれの機器の取扱説明書でご確認ください。

ワイド画面を楽しむ

お好みの画面モードを選べます。

WIDE MODE ボタンを押す。

押すたびに、「ワイドモード」の設定が順次切り換わります。
メニューでも選べます。（☞ 51 ページ）

「ワイドズーム」（動画信号入力時）

4：3 の映像を違和感少なく画面いっぱいに映します。上下が少し切れます。

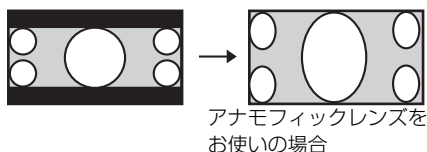
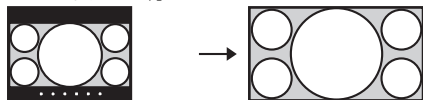
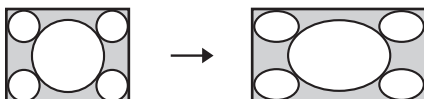
「ノーマル」（動画信号入力時）

4：3 の映像を、画面の中央へ上下いっぱいに映します。

「フル」（動画信号入力時）

4：3 にスクイーズされた映像を正しい縦横比で映します。また、4：3 の映像を映した場合は、左右に引き伸ばした状態になります。

ちょっと一言

スクイーズ：オリジナルの映像が縦長に圧縮されて記録されている状態をスクイーズと言います。

「ズーム」

16：9の映像をスクリーンいっぱいになるよう縦横同じ比率で拡大して映します。
レターボックス付きあるいは、レターボックスかつサイドパネル付きの映像などに適しています。
字幕付きの映画などで字幕部分が隠れて見えない場合は、「縦サイズ」および「画面位置 上下」で調整し、字幕を表示させます。（☞ 52 ページ）

「アナモフィックズーム」（動画信号入力時）

2.35：1の映像を16：9に変換して表示します。16：9の映像を2.35：1に変換して投射する市販のアナモフィックレンズをお使いの場合に最適なモードです。
また、TRIGGER2端子に12 Vの信号が出力され、アナモフィックレンズを連動させる場合の同期信号としてお使いいただけます。

「フル 1」（コンピューター信号入力時）

オリジナル映像の縦横比を変えずに画面いっぱいに映します。

「フル 2」（コンピューター信号入力時）

オリジナル映像を画面いっぱいに映します。

ご注意

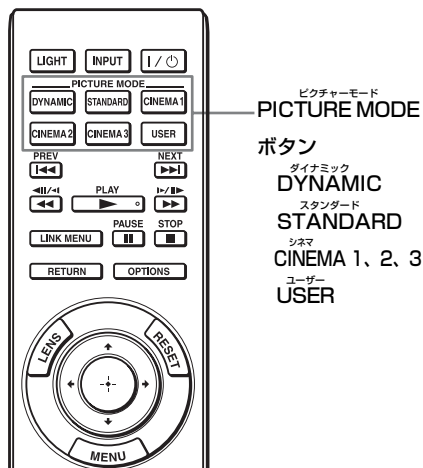
・「 スクリーン設定」メニューの「画面位置 上下」、「縦サイズ」は、「ワイドモード」で「ズーム」に設定したときのみ調整できます。（☞ 52 ページ）
・アナモフィックレンズの種類によっては、ズームしたときに、スクリーン画面が欠ける場合があります。ご使用になるアナモフィックレンズの仕様をご確認ください。
・コンピューター信号の縦横比が 16：9 のとき、および 16：9 より横長のときは、「ワイドモード」は「フル 1」に固定されます。

ワイドモード切換時のご注意

本機はワイドモード切り換え機能があります。ワイドモード切り換え時は以下のことにご注意ください。

・テレビ番組などソフトの映像比率と異なるモードを選択すると、オリジナルの映像と見えかたに差が出ます。この点にご注意してワイドモードを選択してください。
・営利目的、また公衆に視聴させることを目的として、喫茶店、ホテルなどにおいて、ワイドモード切り換え機能（ワイドズーム）などを利用して、画面の分割表示や圧縮、引き伸ばしなどを行いますと、著作権法上で保護されている著作者の権利を侵害する恐れがありますので、ご注意ください。

画質を選ぶ

使用する場所や投影する映像の内容に合った画質設定を選べます。

PICTURE MODE ボタン（DYNAMIC、STANDARD、CINEMA 1、2、3 または USER）を押す。

DYNAMIC（ダイナミック）

明るくメリハリのある鮮やかな画質になります。

STANDARD（スタンダード）

TV 番組やコンサートなどのビデオ映像に適しています。

CINEMA 1（シネマ 1）

映画などを見るのに適した画質になります。

CINEMA 2（シネマ 2）

デジタルシネマのコンテンツに適した画質になります。

CINEMA 3（シネマ 3）

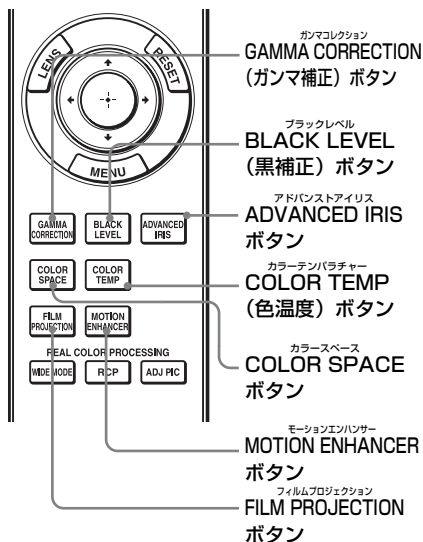
映画スタジオでの編集環境に準じた映像になります。

USER（ユーザー）

お好みの画質に調整すると、その設定が記憶されます。（☞ 37、45 ページ）記憶後はボタンを押すだけでお好みの画質でご覧いただけます。

お好みの画質に調整する

リモコンのボタンで、簡単にお好みの画質に調整できます。また、各画質モードごとに、調整した画質を記憶させることができます。

ダイレクトに項目を選んで調整する

次の項目がリモコンのボタンで調整できます。

「ガンマ補正」

「黒補正」

「アドバンストアイリス」

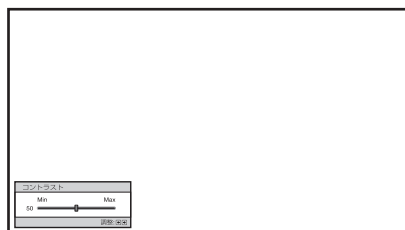
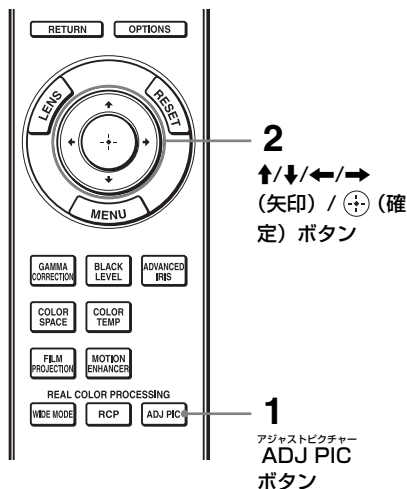
「色温度」

「カラースペース」

「モーションエンハンサー」

「フィルムプロジェクション」

選んだ項目のボタンを繰り返し押して、お好みの画質に調整してください。各項目について詳しくは、「画質設定メニュー」（☞ 45 ページ）をご覧ください。

順番に項目を選んで調整する

例：コントラストを調整する場合

1 **ADJ PIC ボタンを押す。**

押すたびに、次の順にそれぞれの画質調整画面が繰り返し表示されます。

「アドバンストアイリス」、「ランプコントロール」、「フィルムプロジェクション」、「モーションエンハンサー」、「コントラスト」、「明るさ」、「色の濃さ」、「色あい」、「色温度」、「シャープネス」、「NR」、「MPEG NR」、「フィルムモード」、「ガンマ補正」、「x.v.Color」、「カラースペース」

各項目について詳しくは、「画質設定」メニュー（☞ 45 ページ）をご覧ください。

ご注意

入力する信号の種類によっては画質調整画面が表示されない項目があります。詳しくは、「入力信号と調整・設定項目」（☞ 84 ページ）をご覧ください。

2 **↑/↓/←/→ ボタンで調整や設定をする。**

数値を変更する項目の場合は

↑/→ ボタンを押すと数値が大きくなり、↓/← ボタンを押すと数値が小さくなる。

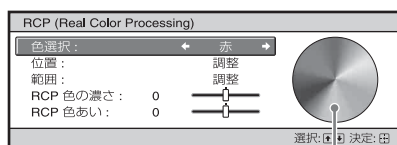
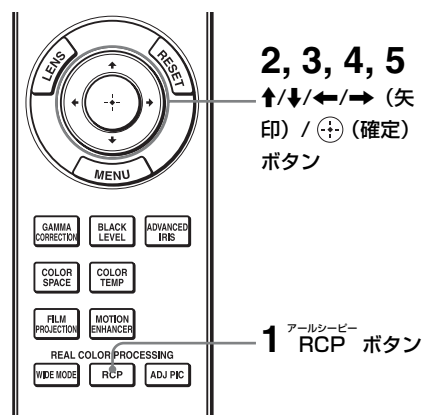
設定を変更する項目の場合は

↑/↓ ボタンを押して設定を選ぶ。

より細かく画質を調整する（リアルカラープロセッシング）

調整したい色を細かく選び、選んだ色ごとにお好みの色あい、色の濃さを調整することができます。よりリアルできめ細かいお好みの画像を映すことができます。

ちょっと一言

調整したい色のあるシーンで、入力機器の映像を一時停止して調整を行ってください。

補正パレット

1 RCP（リアルカラープロセッシング）ボタンを押す。

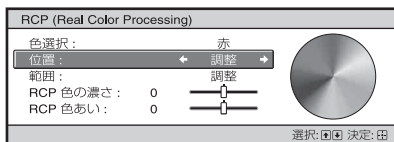
2 ↑/↓ボタンを押して、「ユーザー 1」、「ユーザー 2」または「ユーザー 3」を選び、→ボタンを押す。

RCP 調整画面が画面下に表示されます。

3 調整したい色を選ぶ。

下記の ①、② を繰り返して調整したい色を決めます。

① ↑/↓ ボタンで「色選択」を選び、←/→ ボタンで、調整したい色を「赤」、「黄」、「緑」、「シアン」、「青」、「マゼンタ」から選ぶ。
投影画面の中で、選んだ色に対応する部分のみ色が表示され、それ以外は白黒で表示されます。RCP 調整画面の補正パレットにも選んだ色のみ表示されます。

補正パレットを目安に、投影画面の色を見ながら調整する色を選んでください。

② ↑/↓ ボタンで「位置」または「範囲」を選び、←/→ ボタンで調整したい色の位置と色の範囲を細かく絞り込む。

4 選択した部分の色を調整する。

↑/↓ ボタンで「RCP 色の濃さ」または「RCP 色あい」を選び、投影画面を見ながら ←/→ ボタンでお好みの色になるように調整します。このとき、白黒表示は解除され通常の投影画面になります。

5 調整が終わったら、⊕ ボタンを押す。

RCP 調整画面が消えて手順 2 の画面になり、数秒後に通常の画面に戻ります。

ちょっと一言

位置や範囲調整には制限があります。

付属のソフトウェアを使って画質を調整する（ImageDirector3）

付属 CD-ROM の「ImageDirector3」を使って、本機に接続したパソコンから、ガンマ値をお好みに応じて調整することができます。本機の REMOTE 端子にパソコンをつなぎ、パソコンから「ImageDirector3」を起動します。
「ImageDirector3」の使いかたについては、CD-ROM 内のヘルプをご覧ください。

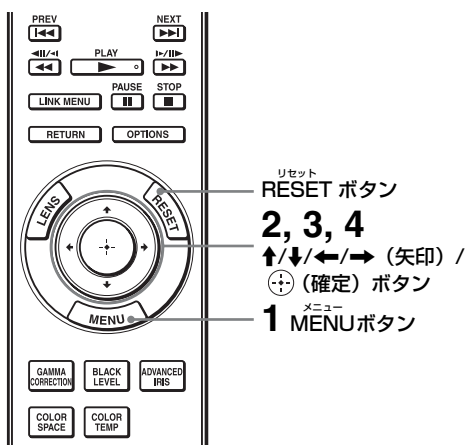
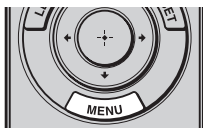
ご注意

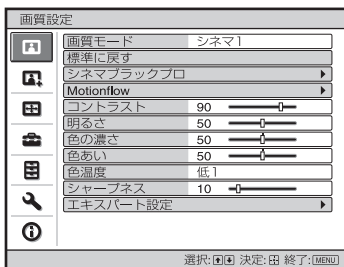
- 「ImageDirector3」をパソコンにあらかじめインストールしておく必要があります。
- REMOTE 端子にパソコンをつなぐときは、パソコンおよび本機の電源を切った状態でつないでください。
- 「ImageDirector3」で調整できるのは「画質設定」メニューで「ガンマ補正」の設定がガンマ 1 ～ 6 のときだけです。ガンマ 7 ～ 10、「切」のときは調整できません。
- Image Director3 をご使用の際は、あらかじめ「 画質設定」メニューの「ガンマ補正」で、「切」またはガンマ 1 ～ 6 を選択してください。

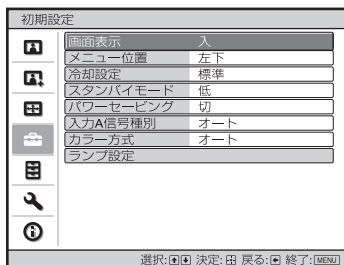
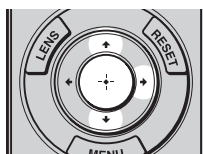
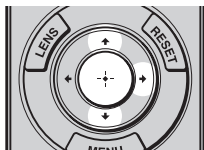
メニュー画面で調整や設定をする

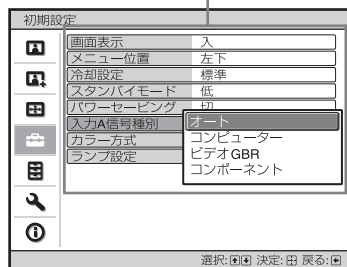
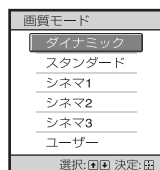
この章では、メニュー画面で画質を細かく調整したり、画面の位置やサイズ、ゆがみを調整するなどの操作を説明しています。

メニュー操作のしかた

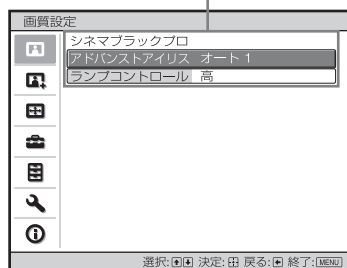
本機では、入力信号の設定、初期設定の変更など、各種調整や設定をメニュー画面で行います。選んだ調整／設定項目によって、ポップアップメニューで表示されるもの、メニュー画面を消して設定メニューや調整メニューで表示されるもの、次の階層に表示されるものがあります。項目名の後ろに矢印（▶）が付いた項目を選ぶと、次の階層に設定できる項目が表示されます。

1 **MENU ボタンを押す。**

メニュー画面が表示されます。

2 **↑/↓ボタンを押してメニュー項目を選び、➡ または ⊕ ボタンを押す。**

調整／設定できる項目が表示され、現在選ばれている項目が黄色で表示されます。

ポップアップメニュー

設定できる項目

設定メニュー

調整メニュー

次の階層に表示された画面

設定できる項目

3 ↑/↓ボタンを押して設定したい項目を選び、→ または ⊕ ボタンを押す。

設定できる項目が、ポップアップメニュー、設定メニュー、調整メニューまたは次の階層に表示されます。

4 調整や設定をする。

数値を変更する項目の場合は

数値を大きくしたいときは、↑/→ボタンを押す。⊕ボタンを押すと設定が確定し、元のメニュー画面に戻ります。
数値を小さくしたいときは、↓/←ボタンを押す。⊕ボタンを押すと元のメニュー画面に戻ります。

設定を変更する項目の場合は

↑/↓ボタンを押して設定を選ぶ。
⊕ボタンを押すと元の画面に戻ります。ただし項目によっては←ボタンでも元の画面に戻ります。

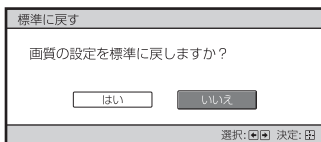
調整できない項目について

入力する信号の種類によって、調整／設定できる項目が異なります。調整／設定できない項目はメニューに表示されません。（☞ 84 ページ）

メニュー画面を消すには

MENU ボタンを押す。

調整した画質をお買い上げ時の値に戻すには

「画質設定」メニューから「標準に戻す」を選択する。

画面表示されたら←ボタンで「はい」を選択して ⊕ボタンを押す。

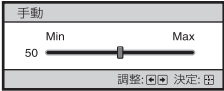
次の全項目の設定値がお買い上げ時の値に戻ります。
「画質設定」メニューの「シネマブラックプロ」、「Motionflow」、「コントラスト」、「明るさ」、「色の濃さ」、「色あい」、「色温度」、「シャープネス」および「エキスパート設定」の各項目

調整、設定した項目をお買い上げ時の値に戻すには

メニュー画面で項目を選び、ポップアップメニュー、設定メニュー、調整メニューを表示する。
リモコンの RESET ボタンを押すと、選択した項目のみお買い上げ時の値に戻ります。

ご注意

リモコンの RESET ボタンは、調整メニューまたは設定メニューが選択されている状態でのみ有効です。

画質設定メニュー

画質を調整するメニューです。

ご注意

入力する信号の種類によっては、調整／設定できない項目があります。詳しくは、「入力信号と調整・設定項目」（☞ 84 ページ）をご覧ください。

画質モード	**ご覧になる場所や映像の内容に合わせた画質設定を選べます。** **「ダイナミック」**：明るくメリハリのある鮮やかな画質になります。 **「スタンダード」**：TV 番組やコンサートなどのビデオ映像に適しています。 **「シネマ 1」**：映画などを見るのに適した画質になります。 **「シネマ 2」**：デジタルシネマのコンテンツに適した画質になります。 **「シネマ 3」**：映画スタジオでの編集環境に準じた映像になります。 **「ユーザー」**：好みに合わせた画質を調整、設定し、保存できます。保存したあとはリモコンの USER ボタンを押すと、保存した画質で映像を映すことができます。 **保存のしかた** **1**「ユーザー」を選びます。 **2** メニュー画面で調整したい項目を選び、調整します。 **ちょっと一言** 「ユーザー」以外のモードでも、画質を調整した場合はその設定が保存されます。元の値に戻すには、メニューから「標準に戻す」を選択します。
標準に戻す	現在選択している画質モードの設定を、すべてお買い上げ時の設定に戻します。（☞ 44 ページ） **ご注意** 「色温度」のカスタム 1 ～ 5 の調整値と、「ガンマ補正」の「黒補正」、「白補正」の調整値は保持されます。

シネマブラックプロ	**アドバンストアイリス** **投影時の絞り機能を切り換えます。** **「オート 1」**：投影されるシーンに合わせて最適な絞り値に自動的に切り換わり、最も高いコントラストが得られます。 **「オート 2」**：「オート 1」より絞りの稼動範囲が狭く、コントラストを抑えた画質になります。 **「応答性」**：「オート 1」、「オート 2」を選択した場合には、応答性モードでお好みによって絞りの応答速度を「通常」、「速い」、「遅い」から選択できます。 **「手動」**：絞り値（固定）を手動で調整します。 **「切」**：アイリス（絞り）機能を使用しません。
	ランプコントロール **投影時のランプのワット数を切り換えます。** **「高」**：ランプの輝度が上がり、明るい画面になります。 **「低」**：輝度が下がり、明るさを抑え黒を引き締めます。 **ちょっと一言** 「低」から「高」に切り換えるとファンの回転数が上がり、音が少し大きくなります。また、「低」にすると消費電力が下がり、ランプの寿命を延ばすことができます。
Motionflow	**フィルムプロジェクション** **映画本来の動きを再現します。** **「モード 1」**：映画を見るのに適しています。 **「モード 2」**：映画を見るのに適しており、「モード 1」よりも明るい画面になります。 **「モード 3」**：映画を見るのに適しており、「モード 2」よりも明るい画面になります。 **「切」**：通常の画質です。 **ご注意** 「モード 1」、「モード 2」、「モード 3」を選択した時は、「切」よりもやや暗い画質になります。

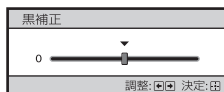
Motionflow	**モーションエンハンサー** **動きの速い映像を、残像感を少なく、なめらかに再現します。** **「強」**：「弱」よりなめらかな画質になります。 **「弱」**：なめらかな画質設定です。 **「切」**：「強」または「弱」に設定時、ノイズなどが見えるような場合は「切」を設定します。通常は「切」でお使いください。 **ご注意** シーンによっては、画像にデジタル特有のノイズが出る場合があります。
コントラスト	**映像のコントラストを調整します。** 設定値が大きくなると映像のメリハリが強くなり、小さくなると弱くなります。 リモコンの CONTRAST+ ／−ボタンで調整できます。
明るさ	**映像の明るさ（輝度）を調整します。** 設定値が大きくなると明るくなり、小さくなると暗くなります。 リモコンの BRIGHTNESS+ ／−ボタンで調整できます。
色の濃さ	**色の濃さを調整します。** 設定値が大きくなると濃くなり、小さくなると薄くなります。
色あい	**色あいを調整します。** 設定値が大きくなると緑がかり、小さくなると赤みがかります。
色温度	**色温度を調整します。** **「高」**：9,300 K 相当の色温度です。 白い部分が青みがかった冷たい色調になります。 **「中」**：8,000 K 相当の色温度です。 「高」と「低」の中間の色調になります。 **「低 1 」**：6,500 K 相当の色温度です。 白い部分が赤みがかった暖かい色調になります。 **「低 2」**：6,000 K 相当の色温度です。 白い部分がさらに赤みがかった暖かい色調になります。 **「カスタム 1 〜 5」**： 好みに合わせた色温度を調整、設定、保存できます。 **お買い上げ時は、以下のように設定されています。** **カスタム 1**：色温度は「高」と同じ設定 **カスタム 2**：色温度は「中」と同じ設定 **カスタム 3**：色温度は「低 1」と同じ設定 **カスタム 4**：色温度は「低 2」と同じ設定 **カスタム 5**：明るさを優先した設定

シャープネス	**映像の輪郭をはっきりさせたり、ノイズを目立たなくさせたりします。** 設定値が大きくなると輪郭がくっきりし、小さくなると柔らかくなりノイズを目立ちにくくできます。 リモコンの SHARPNESS+ ／－ボタンで調整できます。
エキスパート設定	NR（ノイズリダクション） **映像のざらつきやノイズを低減します。** 通常は「切」でお使いください。 ノイズが気になる場合、「弱」、「中」、「強」からソースに応じて選んでください。
	MPEG NR（MPEG ノイズリダクション） **デジタル特有のブロックノイズやモスキートノイズを低減します。** **「ブロック NR」**：モザイク状に発生するデジタルノイズを低減します。 **「モスキート NR」**：映像の輪郭部分に見えるデジタルノイズを低減します。
	フィルムモード **映像の素材にあわせて、再生する方法を設定します。** **「オート 1」**：映画ソフトのオリジナルに近い動きを再現するのに適しています。通常は「オート 1」のままお使いください。 **「オート 2」**：映画ソフトなど 2-3、2-2 プルダウン方式の素材を自動で検出して、なめらかな動きで再現します。また、2-3、2-2 プルダウン方式以外の素材の場合は、プログレッシブ再生します。 **「切」**：上記自動検出を行わず、プログレッシブ再生のみ行います。
	ガンマ補正 **補正映像の階調の応答特性を設定します。** 好みに合わせて 10 通りの階調の中から選択できます。 **「ガンマ 1」**： **明** 全体的に明るい映像になります。 **「ガンマ 2」** ↑ **「ガンマ 3」** **「切」** **「ガンマ 4」** ↓ **「ガンマ 5」**： **暗** 全体的に暗い映像になります。 **「ガンマ 6」**： 映像の暗い部分を明るくし、階調表現が豊かになります。 **「ガンマ 7」**： 明暗をやや強調した画質になります。 **「ガンマ 8」**： 明暗を「ガンマ 7」より強調した画質になります。 **「ガンマ 9」**： フィルムのガンマカーブに準じた設定になっています。 **「ガンマ 10」**：「ガンマ 9」よりも黒側の階調表現が豊かになります。 **「切」**：ガンマ補正を行いません。

<table>
<tr>
<td rowspan="3">エキスパート
設定</td>
<td>

黒補正：明暗のはっきりしたメリハリのある画質になります。
映像ソースに合わせて設定します。
「３」：映像の暗い部分が明るくなります。
↕
「－３」：映像の暗い部分が強調されます。

白補正：明暗のはっきりしたメリハリのある画質になります。
映像ソースに合わせて設定します。
「３」：映像の明るい部分がより明るくなります。
↕
「－３」：映像の明るい部分の輝度を落とします。
付属 CD-ROM の「ImageDirector3」を使うと、好みに応じて階調を調整でき、調整した値はパソコンに保存できます。
「ImageDirector3」の使いかたについて詳しくは、CD-ROM 内のヘルプをご覧ください。

ご注意
「ImageDirector3」で調整できるのは、ガンマ 1 ～ 6 の設定のときだけです。ガンマ 7 ～ 10、「切」は調整できません。
「ImageDirector3」で調整したデータを保存すると、オリジナルの状態には戻せません。元に戻す可能性があるときは、あらかじめ調整前のデータをパソコンなどに保管してください。</td>
</tr>
<tr>
<td>x.v.Color
x.v.Color 映像信号を再生する場合に設定します。
x.v.Color に対応した機器をつないで、x.v.Color 映像信号を再生するときは、「入」に設定します。
x.v.Color について詳しくは、「x.v.Color（エックスブイ・カラー）について」（☞ 64 ページ）をご覧ください。</td>
</tr>
<tr>
<td>カラースペース
色再現領域を切り替えます。
「ノーマル」：sRGB 規格に準じた色域です。
「ワイド 1」：フィルムの色あいに近づけます。
「ワイド 2」：デジタルシネマの色あいに近づけます。
「ワイド 3」：さらに色域を広げ、鮮やかな色あいになります。</td>
</tr>
</table>

画質詳細設定メニュー

さらに詳細に画質を調整するメニューです。

RCP **（リアルカラープロセッシング）**	**選択した色ごとに好みの色あいと色の濃さに調整できます。** **「ユーザー 1」、「ユーザー 2」、「ユーザー 3」**：リアルカラープロセッシングを使った調整をし、保存できます。保存したあと、設定した画質で映像を映すことができます。 **「切」**：調整しません。 詳しい調整のしかたは、「より細かく画質を調整する（リアルカラープロセッシング）」をご覧ください。（☞ 39 ページ）

スクリーン設定メニュー

入力信号の設定を変更するメニューです。
画面のサイズやワイド切り換えなどを調整できます。

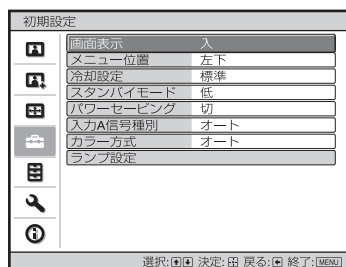
ご注意

入力する信号の種類によっては、調整／設定できない項目があります。詳しくは、「入力信号と調整・設定項目」（☞ 84 ページ）をご覧ください。

ワイドモード（動画信号入力時）	**入力信号に対して、どのような縦横比の映像を投影するかを設定します（☞ 33 ページ）。動画信号入力時（メモリーナンバー 1 ～ 14）（☞ 81 ページ）の場合のみ設定できます。** **「ワイドズーム」：**4:3 の映像を違和感少なく画面いっぱいに映します。上下が少し切れます。 **「ノーマル」：**4:3 の映像を、画面の中央へ上下いっぱいに映します。 **「フル」：**4:3 にスクイーズされた映像を正しい縦横比で映します。 **「ズーム」：**映像をスクリーンいっぱいになるよう縦横同じ比率で拡大して映します。映像の上下が切れます。 **「アナモフィックズーム」：**2.35:1 の映像を 16:9 に変換して表示します。16:9 の映像を 2.35:1 に変換して投射する市販のアナモフィックレンズをお使いの場合に最適なモードです。この設定のとき、TRIGGER 2端子に 12 V の信号が出力されます。（☞ 10、34 ページ） リモコンの WIDE MODE ボタンで切り換えることができます。

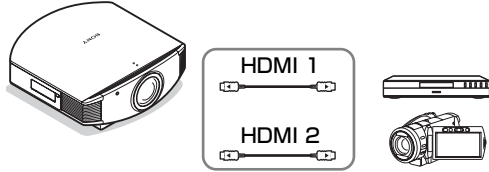
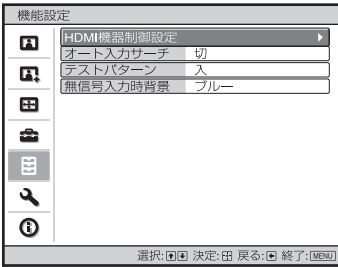
ワイドモード （コンピュー ター信号 入力時）	**入力信号に対して、どのような縦横比の映像を投影するかを設定します（☞ 34 ページ）。コンピューター信号入力時のみ設定できます。** **「フル 1」：**オリジナル映像の縦横比を変えずに画面いっぱいに映します。 **「フル 2」：**オリジナル映像を画面いっぱいに映します。 **「ズーム」：**映像をスクリーンいっぱいになるように縦横同じ比率で拡大して映します。映像の上下が切れます。 リモコンの WIDE MODE ボタンで切り換えることができます。 **ご注意** 入力信号の縦横比が 16：9 のとき、および 16：9 より横長のときは、「フル 1」に固定されます。
オーバー スキャン	**映像の周囲を隠します。** **「入」：**入力映像の周囲を隠します。映像の端にノイズなどが見えるような場合にはこちらに設定します。 **「切」：**入力映像をすべて表示します。 **ちょっと一言** 画面の上下左右の表示領域を調整するときは「設置設定」メニューの「ブランキング」（☞ 59 ページ）をご覧ください。
スクリーン エリア	**ハイビジョン映像をオーバースキャンした場合の映像の大きさを選択します。** **「フル」：**画面いっぱいに拡大します。 **「スルー」：**画面いっぱいに拡大しません。
画面位置 上下	**映像全体を上下に移動させて調整します。** 数値が大きくなると画面が上に動き、小さくなると下に動きます。
縦サイズ	**映像を縦方向に拡大もしくは縮小します。** 数値を大きくすると拡大され、小さくすると縮小されます。字幕付き映画などに表示されている字幕が見えない場合などに「画面位置 上下」と組み合わせて使用します。
入力信号調整	**入力信号を調整します。** **「APA（オートピクセルアライメント）」：**コンピューター信号入力時、映像信号に合った位置にフェーズ、ピッチ、シフトを自動調整します。 **「フェーズ」：**コンピューター信号入力時、画素とコンピューター信号の位相を調整します。一番くっきり見える数値にします。 **「ピッチ」：**コンピューター信号入力時、画面の水平方向のサイズを調整します。数値が大きくなるとサイズが大きくなり、小さくなるとサイズが小さくなります。入力信号のドット数と同じ数値にあわせます。 **「シフト」：**画面の位置を調整します。 **「H」（水平）：**数値が大きくなると画面が右に、小さくなると画面が左に移動します。←/→ ボタンを押して設定します。 **「V」（垂直）：**数値が大きくなると画面が上に、小さくなると画面が下に移動します。↑/↓ ボタンを押して設定します。

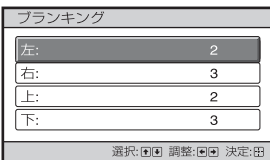
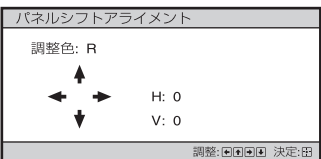
初期設定メニュー

お買い上げ時の設定などを変更するメニューです。

画面表示	**メニュー表示などの情報を投影画面に表示するかを設定します。** 「切」に設定すると、一部のメニューの表示、電源を切るときの確認メッセージ、警告メッセージ以外の画面表示が出なくなります。
メニュー位置	**画面上のメニューの表示位置を変えることができます。** **「左下」**：メニューを画面の左下に表示します。 **「中央」**：メニューを画面の中央に表示します。
冷却設定	**高地で使用の場合に設定します。** **「強」**：1,500m 以上の高地で使用の場合はこの位置に設定します。 **「標準」**：平地での使用の場合はこの位置に設定します。 **ご注意** 設定を「強」にした場合、ファンの回転数が上がるため、音が少し大きくなります。
スタンバイモード	**スタンバイ時の消費電力を少なくします。** 「標準」に設定すると、通常の消費電力になります。 「低」に設定すると、スタンバイ時の消費電力を少なくすることができます。 **ご注意** ・お買い上げ時の設定は「低」になっています。 ・設定を「低」にした場合、「HDMI 機器→ PJ 電源連動」制御が無効になり、動作しません（メニューにも表示されません）。（☞ 55 ～ 56 ページ）

パワーセービング（節電モード）	**パワーセービングを設定します。** 「入」に設定し、プロジェクターに信号が入力されない状態が 10 分以上続くと節電モードになり、ON/STANDBY ランプがオレンジ色に点灯し画面が暗くなります。その後、信号が入力されたり、本機のコントロールパネルやリモコンのボタンを押すと解除されます。節電モードにしないときは、「切」にします。
入力 A 信号種別	**INPUT A に入力される信号の種類を選択します。** INPUT ボタンで「入力 A」を選んで映す機器からの信号の種類を選びます。 **「オート」：**入力されている信号の種類を自動判別して設定します。 **「コンピューター」：**パソコンからの信号を入力するときに選びます。 **「ビデオ GBR」：**ゲーム機、ハイビジョン放送などの信号を入力するときに選びます。 **「コンポーネント」：**DVD プレーヤー／レコーダー、ブルーレイディスク（BD）プレーヤー／レコーダー、デジタルチューナーなどからのコンポーネント信号を入力するときに選びます。 **ご注意** 「オート」に設定して、入力されている信号が正しく表示されない場合は、入力信号に合わせて設定してください。
カラー方式	**ビデオ入力時のカラー信号方式を選択します。** **「オート」：**NTSC3.58、PAL、SECAM、NTSC4.43、PAL-M、PAL-N、PAL60 から自動判別します。 **「NTSC3.58」～「PAL-N 」：**強制的に指定されたカラーシステムに設定します。 **ご注意** 通常は「オート」にしておくと、自動的に判別しますが、信号の状態が悪く、画が乱れたり色がつかない場合は、入力信号のカラー方式にあわせて選択してください。
ランプ設定	**光源用ランプ交換をしたときに、設定します。（☞ 74 ページ）**

機能設定メニュー

本機の機能の設定を変更するメニューです。

HDMI 機器制御設定	**HDMI 機器制御に関する設定を変更できます。** **「HDMI 機器制御」：** HDMI 1、2 入力端子に HDMI 制御に対応した機器をつないでいるときに、HDMI 機器制御を有効にするかどうかを設定します。 「入」に設定すると、以下のことができます。 ・つないでいる HDMI 機器制御対応機器と本機との間で、連動した操作ができるようになります。 ・「HDMI 機器制御設定連動」* 対応のソニー製機器（AV アンプやビデオなど）の、HDMI 機器制御設定も連動して有効になります。 お買い上げ時の設定は「入」になっています。 **「PJ → HDMI 機器電源連動」：** 本機の電源を切るときに、つないでいる HDMI 機器制御対応機器の電源も連動して切るかどうかを設定します。 「入」に設定すると、本機の電源を切ると機器の電源も連動して切れます。 お買い上げ時の設定は「入」になっています。 **「HDMI 機器→ PJ 電源連動」：** 本機の電源を、つないでいる HDMI 機器制御対応機器に連動させることができます。 「入」に設定すると、つないだ機器の電源を入れたり再生などの操作をすると、本機の電源も自動的に入ります。

HDMI 機器制御設定	**ご注意** 「入」にする場合は、「 初期設定」メニューの「スタンバイモード」（☞ 53 ページ）を「標準」に設定してから、「HDMI 機器→PJ 電源連動」を「入」にしてください。詳しくは「HDMI 機器制御について」（☞ 63 ページ）をご覧ください。 **「HDMI 機器一覧」：**つないでいる HDMI 機器制御対応機器を一覧表示します。 一覧表示された AV アンプ以外の機器は、本機リモコンの LINK MENU ボタンで選べるようになります。また、「有効にする」を選ぶと、「HDMI 機器制御設定連動」* 対応のソニー製機器（AV アンプやビデオなど）の、HDMI 機器制御設定も有効になります。 *「HDMI 機器制御設定連動」は、本機の HDMI 機器制御設定を有効にすると、HDMI 入力端子につないだ機器の HDMI 機器制御設定も有効にする機能です。ソニー製の対応機器との間でのみ動作する機能で、機器によっては対応していない場合もあります。また、ソニー以外の機器でも対応する場合がありますが、機能を 100%保証するものではありません。
オート入力サーチ	**入力信号のない入力端子を表示させません。** 「入」に設定すると、INPUT ボタンを押したとき表示される入力端子選択パレットには、入力信号のない端子は表示されません。 すべての入力端子を表示させるときは「切」に設定します。（☞ 29 ページ）

テストパターン	**テストパターンを表示します。** 「入」にすると、レンズのフォーカス、ズーム、シフト調整時およびVキーストーン調整時に、テストパターンが表示されます。表示したくないときは「切」にします。 **ちょっと一言** テストパターン表示時は、フォーカスが合わせやすいように緑単色の表示となります。
無信号入力時背景	**信号が入力されていないときの画面の色を選択できます。** 「ブラック」または「ブルー」に設定できます。

設置設定メニュー

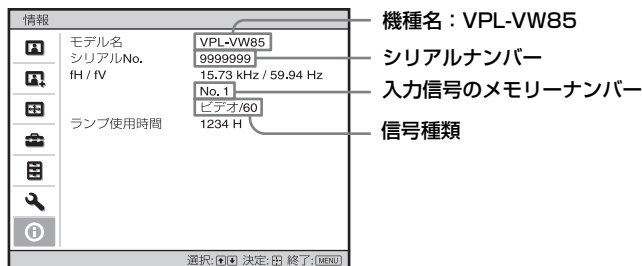
設置設定を変更するメニューです。

V キーストーン	**投影角度によって画像が台形になってしまった場合に補正します。** **画面の上辺より下辺が長い場合（　）** マイナス方向に数値を設定します。 **画面の下辺より上辺が長い場合（　）** プラス方向に数値を設定します。 **ご注意** レンズシフトの調整位置によっては、V キーストーン補正を行うとオリジナル画像の縦横比が維持できない、または画像に歪みが生じる場合があります。
画像反転	**画像を水平または垂直方向に反転します。** **「切」、「上下左右」、「左右」、「上下」**に変えます。天井つり設置やスクリーンの裏面投射設置するときなどに使用します。
レンズ コントロール	**レンズ関連の調整（「レンズフォーカス」、「レンズズーム」、「レンズシフト」）を誤って変更しないようにします。** 「入」に設定するとレンズ関連の調整ができます。レンズ関連の調整を変更したくないときは「切」に設定します。
リモコン受光部	**リモコンの効きが悪いとき、本体前面と後面にあるリモコン受光部を切り換えます。** **「前＆後」：**前面と後面のリモコン受光部を両方働かせるとき。 **「前」：**前面のリモコン受光部だけを働かせるとき。 **「後」：**後面のリモコン受光部だけを働かせるとき。

ブランキング	**画面の上下左右の表示領域を調整します。** ↑/↓ ボタンで変更をしたいスクリーンの側面を「左 / 右 / 上 / 下」の中から選択します。 ←/→ ボタンでブランキング量を調整します。 **ご注意** 「ブランキング」と「V キーストーン」を同時に調整すると、「ブランキング」が正しくかかりません。「ブランキング」を使用する際は、「V キーストーン」を 0 にしてください。
パネルアライメント	**文字や映像の色ずれを微調整します。** 「入」にすると、「調整色」の指定や「調整パターン色」の指定を行い調整することができます。 **「調整アイテム」**：調整方法を以下より選択します。 **「シフト」**：画面全体をシフトして調整します。 **「ゾーン」**：調整したい範囲を指定して調整します。 **「調整色」**：色ずれの気になる色を指定します。「G」(緑) を基準に調整するため、「R」(赤) または「B」(青) を選択します。 **「調整パターン色」**：「調整色」が「R」(赤) の場合は、「R/G」(赤と緑) または「R/G/B」(白、全色) を選択します。「調整色」が「B」(青) の場合は、「B/G」(青と緑) または、「R/G/B」(白、全色) を選択します。 **「調整」**：「調整色」で選択した色のシフト調整およびゾーン調整を、←/→、↑/↓ ボタンで行います。 **「シフト」選択時**：シフト調整画面で ←/→ ボタンで水平方向（H)、↑/↓ ボタンで垂直方向（V）の調整量を設定します。 **「ゾーン」選択時**：調整する位置を、←/→ ボタンで水平位置（H 位置)、↑/↓ ボタンで垂直位置（V 位置）を選択し、⊕ ボタンを押します。

パネルアライメント	←/→ ボタンで水平方向（H 方向）、↑/↓ ボタンで垂直方向（V 方向）の調整量を設定します。⊕ ボタンを押すと、調整する位置を再度選択できます。 **「リセット」：**設定がお買い上げの時の値に戻ります。 **ご注意** 調整値によっては、色付きや解像感に変化が生じる場合があります。

情報メニュー

プロジェクターの機種名、シリアルナンバー、投影時の画像の水平、垂直周波数やランプ使用時間などの情報を見ることができます。

モデル名	機種名（VPL-VW85）を表示します。
シリアル No.	シリアルナンバーを表示します。
fH（水平周波数）	水平周波数を表示します。
fV（垂直周波数）	垂直周波数を表示します。
メモリーナンバー	入力信号のプリセットメモリーナンバーを表示します。
信号種類	入力信号の解像度を表示します。
ランプ使用時間	ランプの使用時間を累積して表示します。

ご注意

- fH（水平周波数）と fV（垂直周波数）は、お使いの入力信号によっては表示されないことがあります。
- 上記の項目は変更できません。

プリセットメモリーについて

本機では、お買い上げ時に、38 種類の信号に対して最適な画面で映るように映像データがあらかじめ設定されています（プリセットメモリー）。これらの信号を入力したときは、本機が入力信号を自動的に判別し、プリセットメモリー内のデータを呼び出し、最適な画面でスクリーンに映します。「 情報」メニューの画面に入力信号のメモリーナンバーと信号種類が表示されます。
プリセットされたデータを「 スクリーン設定」メニューでさらに調整できます。
また、アナログコンピューター信号の入力用にプリセットメモリーとは別に、20 個のユーザーメモリーがあり、プリセットされていない入力信号の設定を登録できます。プリセットされていない信号が初めて入力されたときは、メモリーナンバー 0 と表示され、「 スクリーン設定」メニューで設定を変更した場合、本機に登録されます。登録数が 20 個を超えると、古いデータから順番に上書きされます。
プリセットされている信号についての情報は、「プリセット信号一覧」にあります。（☞ 81 ページ）

ご注意

縦横比がスクリーンサイズに合わない場合、画面の一部が黒で表示されます。

その他

ここでは、その他の機能や、本機が正常に動かないときに解決する方法、光源用ランプやエアフィルターの交換のしかたなどについて説明します。

HDMI 機器制御について

HDMI 機器制御とは

HDMI 機器制御とは、HDMI で規格化されている HDMI CEC（Consumer Electronics Control）を使った、機器間相互制御の機能です。HDMI 機器制御対応のテレビやプロジェクターに、ハードディスク搭載ブルーレイディスク（BD）プレーヤー／レコーダー、DVD プレーヤー / レコーダー、AV アンプなどを HDMI ケーブルでつなぐだけで、それぞれの機器間で連動した操作ができるようになります。

HDMI 機器制御を使うには

- 対応機器それぞれで正しい接続と設定をしてください。
- 対応機器の主電源を切らないでください。
- 本機で、対応機器を接続した HDMI 入力に切り換えてください。
- 本機で、対応機器の映像が正常に出ることを確認してください。

対応機器をつなぐ

HDMI ケーブルでつなぎます。接続には、HDMI ロゴがついているものをお使いください。

HDMI 機器制御の設定をする

HDMI 機器制御を使うには、本機とつないだ機器側でそれぞれの設定が必要です。本機の設定については、55 ページをご覧ください。つないだ機器の設定はそれぞれの取扱説明書をご覧ください。「HDMI 機器制御設定連動」に対応している機器を HDMI 入力端子につないでいるときは、本機の HDMI 機器制御設定を有効にすると、つないだ機器の HDMI 機器制御設定も有効になります。

HDMI 機器制御でできること

・本機のリモコンで、つないだ機器の基本的な操作（再生、停止、メニュー操作など）ができます。
・つないだ機器の電源を入れたり再生などの操作をするだけで、本機の電源が入り、入力も自動で切り換わります。
・本機の電源を切るだけで、つないだ機器の電源を自動的に切ることができます。
・本機のリモコンの LINK MENU ボタンで操作したい機器を選ぶと、選んだ機器の電源が自動的に入り、本機の入力も自動的に切り換わります。

ご注意

・HDMI 機器制御できることは機器によって異なります。それぞれ機器の取扱説明書でご確認ください。
・同様の機能を搭載した他社製機器との間でも動作する場合もありますが、保証されたものではありません。

x.v.Color（エックスブイ・カラー）について

・“x.v.Color”とは、xvYCC 規格に対応し、従来以上の広色域表現が可能な機器に付す名称としてソニーが提案している商標です。
・xvYCC 規格とは、ビデオ映像信号の色空間の国際規格のひとつです。現行の放送などで使われている規格より広い色彩が表現できます。

故障かな？と思ったら

修理に出す前に、もう一度次の点検をしてください。以下の対処を行っても直らない場合は、ソニーの相談窓口にお問い合わせください。

電源に関する項目

症状	原因と対処
電源が入らない。	→ I/⏻（オン／スタンバイ）スイッチで電源を切った後すぐに電源を入れた場合に、電源が入らないことがあります。 約 1 分たってから電源を入れてください。 → 光源用ランプカバーをしっかりはめて、ネジをしめてください。（☞ 73 ページ） → フィルターホルダーをしっかりはめてください。（☞ 74 ページ） → 警告ランプを確認してください。（☞ 68 ページ）

映像に関する項目

症状	原因と対処
映像が映らない。	→ ケーブルの接続を確認してください。（☞ 25 ページ） → INPUT ボタンで入力を正しく選んでください。（☞ 29 ページ） → コンピューターの出力信号を外部モニターから出力するように設定してください。 → コンピューターの出力信号を外部モニターだけに出力するように設定してください。 → 入力信号に合わせて「初期設定」メニューの「入力 A 信号種別」でコンピューター、コンポーネント、ビデオ GBR の設定を正しく合わせてください。（☞ 54 ページ）
INPUT A 端子につないだ機器からの映像の色がおかしい。	→ 入力信号に合わせて「初期設定」メニューの「入力 A 信号種別」でコンピューター、コンポーネント、ビデオ GBR の設定を正しく合わせてください。（☞ 54 ページ）
VIDEO または S VIDEO 端子につないだ機器からの映像の色がおかしい。	→「画質設定」メニューで画質の調整をしてください。（☞ 45 ページ） → 入力信号のカラー方式に合わせて、「初期設定」メニューの「カラー方式」を正しく設定してください。（☞ 54 ページ）

症状	原因と対処
映像の明るい部分がつぶれたり、文字がかすれる。(HDMI動画信号入力時)	→ HDMI 規格からはずれた信号が入力されたときに症状が出る場合があります。(☞ 30 ページ)つないだ機器の RGB ダイナミックレンジをリミテッド(16-235)に切り換えてください。この切り換えができないときは、本機の「画質設定」メニューで「明るさ」と「コントラスト」、または「シャープネス」を調整してください。(☞ 47、48 ページ)
パソコンをつないだとき、文字がかすれる。(HDMI コンピューター信号入力時)	→ HDMI 規格からはずれた信号が入力されたときに症状が出る場合があります。(☞ 30 ページ)「画質設定」メニューで「シャープネス」を調整してください。(☞ 48 ページ)
画面が暗い。	→「画質設定」メニューで「コントラスト」、「明るさ」を正しく設定してください。(☞ 47 ページ)
画面がぼやける。	→ 画面のフォーカスを合わせてください。(☞ 20 ページ) → 結露が生じました。電源を入れたまま約 2 時間放置してください。
画面がちらつく。	→ コンピューター信号入力の場合は、APA を実行し、入力信号を調整してください。 →「スクリーン設定」メニューの「入力信号調整」で「フェーズ」を設定しなおしてください。(☞ 52 ページ)
文字や映像の色ずれが気になる。	→「設置設定」メニューの「パネルアライメント」で調整してください。(☞ 59 ページ)
画面に残像が現れる。	→ 画面の同じ位置にコントラストの強い静止画を長時間表示し続けると、一時的な残像が現れることがあります。いったん電源を切り、しばらくすると残像は自然に消えます。

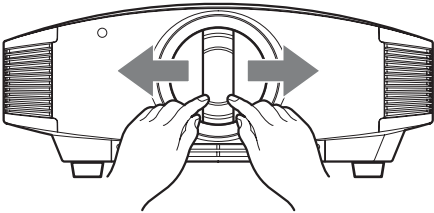
表示に関する項目

症状	原因と対処
画面表示が出ない。	→「初期設定」メニューで「画面表示」の設定を「入」にしてください。(☞ 53 ページ) → ON/STANDBY ランプが緑に点滅していないか確認してください。
画面にモデル名が表示され続ける。または店頭展示モード(デモモード)が表示され続ける。	→ お買い上げ時に本機の展示モードが設定されていることがあります。お買い上げ店、またはソニーの相談窓口にご相談ください。

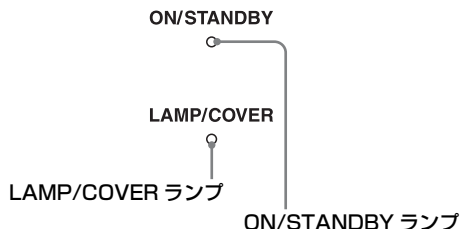
症状	原因と対処
入力端子が表示されない。	➔「機能設定」メニューで「オート入力サーチ」の設定を「切」にしてください。（☞ 56 ページ）

リモコンに関する項目

症状	原因と対処
リモコンが働かない。	➔ 電池が消耗しています。新しい電池と交換してください。（☞ 13 ページ） ➔ 電池の ⊕ ⊖ を正しく入れてください。（☞ 13 ページ） ➔ リモコン受光部の近くに蛍光灯があると誤動作することがあります。 ➔ 本機のリモコン受光部の位置を確認してください。（☞ 10 ページ） ➔「設置設定」メニューで「リモコン受光部」の設定を「前＆後」にしてください。（☞ 58 ページ）

その他

症状	原因と対処
ファンの音が気になる。	➔「冷却設定」を確認してください。（☞ 53 ページ） ➔ 室温が高くないか確認してください。 ➔ 本機の設置条件を確認してください。（☞ 14 ページ） 部品の信頼性を保つために、常温より室温が高くなるとファンの回転数が上がり、音が大きくなります。常温の目安は 25 ℃ です。
レンズシフトが動かない。	➔ レンズシフトは可動範囲を超える方向へは動きません。可動範囲内でご使用ください。（☞ 16、23 ページ）
本体と接続機器の電源が連動して ON/OFF したり、再生したりする。	➔「HDMI 機器制御」、「HDMI 機器→ PJ 電源連動」、「PJ → HDMI 機器電源連動」が「入」になっています。設定を「切」にしてください。 詳しくは「HDMI 機器制御設定」（☞ 55 ページ）をご覧ください。

警告ランプ

本機では、本体天面のON/STANDBYランプとLAMP/COVERランプの点灯または点滅で不具合をお知らせします。

症状	原因と対処
LAMP/COVER赤色点滅（2回点滅パターンの繰り返し）	→ 光源用ランプカバーをしっかりはめて、ネジをしめてください。（☞ 73ページ） → フィルターホルダーをしっかりはめてください。（☞ 74ページ）
LAMP/COVER赤色点滅（3回点滅パターンの繰り返し）	→ 光源用ランプの寿命がきました。光源用ランプを交換してください。（☞ 72ページ） → 光源用ランプが高温になっています。光源用ランプが冷えてから、もう一度電源を入れてください。
ON/STANDBY赤色点滅（4回点滅パターンの繰り返し）	→ ファンが故障しています。ソニーの相談窓口にご相談ください。
ON/STANDBY赤色点滅（2回点滅パターンの繰り返し）	→ 本体内部が高温になっています。排気口、吸気口がふさがれていないか、標高が高い場所で使用していないか確認してください。
ON/STANDBY赤色点滅（6回点滅パターンの繰り返し）	→ I/⏻（オン／スタンバイ）スイッチを押して電源を入れてください。電源が入らない場合は、電源コードを抜いてON/STANDBYランプの消灯を確認してください。約10秒たってから、電源コードを差してもう一度電源を入れてください。それでもこの状態が続いたら、電気系統が故障しています。ソニーの相談窓口にご相談ください。

症状	原因と対処
ON/STANDBY 赤色点滅（5回点滅パターンの繰り返し）	➔ レンズプロテクターが完全に開いていません。もう一度電源を入れ直してください。それでも直らない場合はソニーの相談窓口にご相談ください。 **ちょっと一言** 緊急で使用する必要がある場合は、レンズプロテクターを手で開いてください。（下図参照）I/⏻（オン／スタンバイ）スイッチを押すと電源が入り、使用することができます。

ご注意

上記以外の警告ランプ点滅ならびに上記対応を行っても解決しない場合は、ソニーの相談窓口にご相談ください。

メッセージ一覧

警告メッセージ

メッセージ	意味と対処
「セット内部温度が高いです。1 分後にランプオフします。」	➔ 電源を切ってください。 ➔ 排気口、吸気口をふさいでいないか確認してください。（☞ 15 ページ）
「入力信号の周波数が対応範囲をこえています！」	➔ 入力信号の周波数範囲を超えています。対応範囲内の信号を入力してください。（☞ 81 ページ）
「入力 A 信号種別の設定を確認してください。」	➔ パソコンの RGB 信号を入力するときは、「 初期設定」メニューの「入力 A 信号種別」を「コンピューター」に設定してください。（☞ 54 ページ）
「ランプ／フィルターを交換してください。」	➔ 光源用ランプの交換時期がきました。光源用ランプを交換してください。（☞ 72 ページ） ➔ 光源用ランプ交換と同時にエアフィルターを交換してください。また吸気口の掃除を行ってください。（☞ 72 ページ）光源用ランプ、エアフィルター交換後も表示される場合は、光源用ランプを交換するときの手順を確認してください。（☞ 72 ページ） **ご注意** 画面に表示されるメッセージを消す場合は、リモコンまたはコントロールパネルの任意のボタンを 1 回押してください。
「フィルターを掃除してください。」	➔ エアフィルターを掃除するときがきました。エアフィルターを掃除してください。（☞ 75 ページ） **ご注意** 画面に表示されるメッセージを消す場合は、リモコンまたはコントロールパネルの任意のボタンを 1 回押してください。
「フィルターを掃除してください。掃除しましたか？ はい いいえ」	➔ エアフィルターを掃除するときがきました。エアフィルターを掃除してください。（☞ 75 ページ） ➔ エアフィルターの掃除が終了している場合、「はい」を選択してください。まだ掃除していない場合、「いいえ」を選択してください。

メッセージ	意味と対処
「本機内部の温度が高くなっていますので、冷却設定を強に切り替えます。高地でご使用の際は、冷却設定は強でお使いください。」	➔ 本機の吸排気口が塞がっていないか確認してください。（☞ 15 ページ） ➔ 高地で使用しているときは、冷却設定を「強」にしてください。（☞ 53 ページ） **ご注意** 機内部温度が下がらないと、1 分後に冷却設定が「強」に切り換わり、ファンの回転数があがります。

注意メッセージ

メッセージ	意味と対処
x⊡	➔ 選択されている入力端子に何も入力されていません。接続を確認してください。（☞ 25 ページ）
「無効キーが押されました！」	➔ 正しいボタンで操作してください。 ➔ 操作を受け付けないボタンを押しました。

光源用ランプとエアフィルターを交換し吸気口を掃除する

用意するもの：

・プロジェクターランプ　LMP-H201（別売り）

・標準プラスドライバー

・布（傷防止）

光源用ランプには寿命があります。画面が暗くなったり色がおかしくなった場合、または画面に「ランプ／フィルターを交換してください。」というメッセージが出たときは、光源用ランプが消耗しています。新しい光源用ランプ（別売り）と交換してください。

交換ランプは、別売りのプロジェクターランプ LMP-H201 をお求めください。

別売りのプロジェクターランプ LMP-H201 には、エアフィルターが付属されています。光源用ランプを交換するときは、エアフィルターも一緒に交換してください。また、吸気口の掃除も行ってください。

⚠警告

・I/⏻（オン／スタンバイ）スイッチで電源を切った直後は光源用ランプが高温になっており、さわるとやけどの原因となることがあります。光源用ランプを充分に冷やすため、光源用ランプ交換は、プロジェクターの電源を切ってから 1 時間以上たってから行ってください。

・交換ランプのガラス面は触らないでください。もし汚れが付着した場合は乾いた柔かい布でふき取ってください。

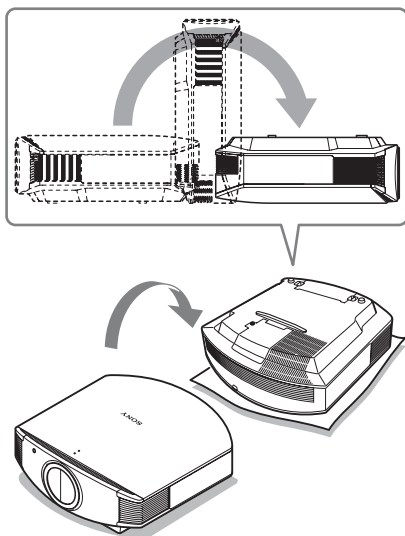
・天井つりした状態での光源用ランプ交換は十分注意してください。

・光源用ランプを取り出すときは、光源用ランプを水平に持ち上げ、傾けないでください。光源用ランプを傾けて持つと、万一光源用ランプが破損した場合に、光源用ランプの破片が飛び出し、けがの原因となることがあります。

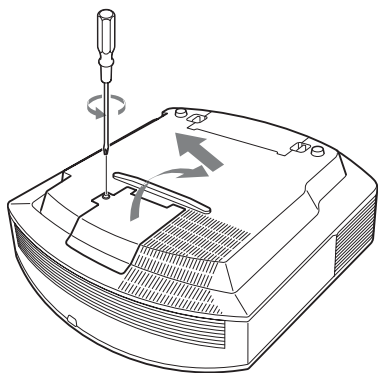
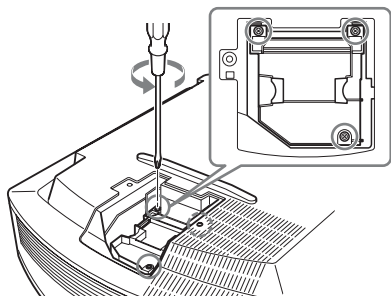
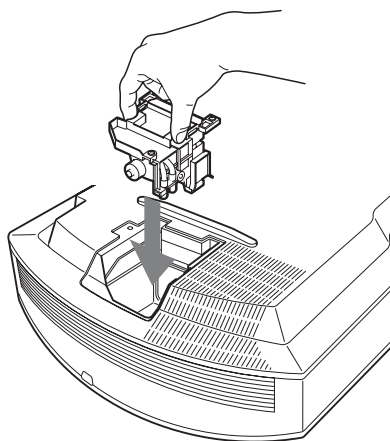
・エアフィルターを取りはずすとき、本体内部にゴミなどが入らないよう十分ご注意ください。

・エアフィルターの交換は、プロジェクターの性能の維持、また故障を防ぐという意味からたいへん重要です。交換のメッセージが表示された場合は、すみやかにエアフィルターを交換してください。

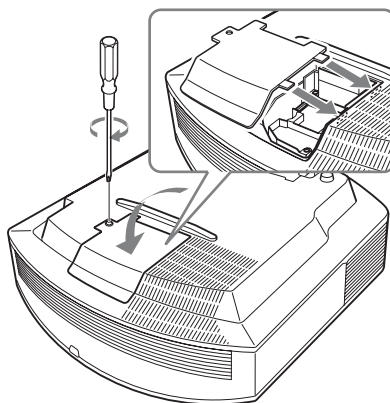
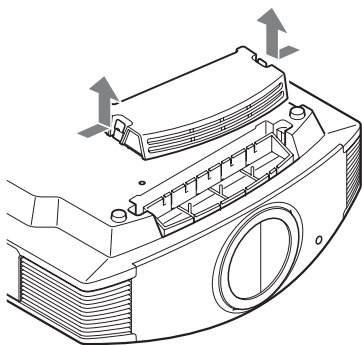
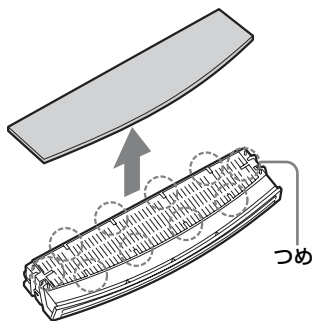
1 プロジェクターの電源を切り、電源コードをコンセントから抜く。

2 床置きの場合はプロジェクターや机などに傷がつかないように布などを敷き、図のようにプロジェクターを反転させて布の上に置く。

ご注意

・光源用ランプが破損している場合は、図のように反転させないと光源用ランプの破片が飛び出し、けがの原因となります。
・プロジェクターは不安定な場所には置かないでください。

3 光源用ランプカバーを固定しているネジ（1 本）をプラスドライバーでゆるめ、光源用ランプカバーを開ける。

4 光源用ランプを固定しているネジ（3 本）をプラスドライバーでゆるめ、取っ手を持って光源用ランプを上に引き出す。

5 新しい光源用ランプの取っ手を持って奥まで確実に押し込み、3 本のネジを締める。

ご注意

光学ブロックには手をふれないでください。

6 光源用ランプカバーを閉め、ネジを締める。

7 フィルターホルダーをはずす。

8 エアフィルターをはずす。

9 新しいエアフィルターをフィルターホルダーのつめ（10ヶ所）にはめる。

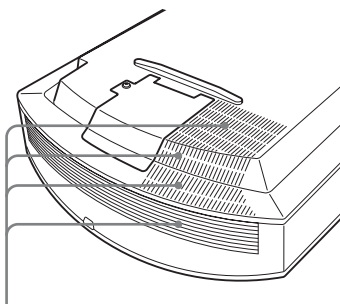
ご注意

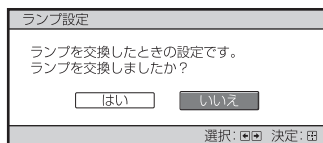
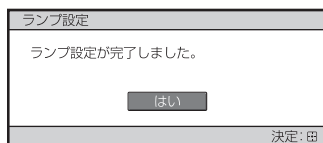
エアフィルターはフィルターホルダーの形状にあわせて取り付けてください。また、エアフィルターを外した後にセットの奥に付いているファンに手をふれないでください。

10 フィルターホルダーを本機に取り付ける。

ご注意

フィルターホルダーがしっかり取り付けられていないと、電源が入りません。

11 吸気口に付着したほこりをやわらかい布でふきとる。

12 プロジェクターの向きを元に戻す。

13 プロジェクターの電源を入れ、「初期設定」メニューのランプ設定項目を選択すると、以下のようなメニュー画面が表示されます。

14「はい」を選択します。

⚠警告

光源用ランプをはずしたあとのランプの収納部に金属類や燃えやすい物などの異物を入れないでください。火災や感電の原因となります。また、やけどの危険がありますので手を入れないでください。

ご注意

・新しい光源用ランプは、必ず交換用ランプ LMP-H201 をお使いください。それ以外のものをお使いになると、故障の原因になります。
・光源用ランプを交換する前に必ずプロジェクターの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、ON/STANDBY ランプの消灯を確認してください。
・光源用ランプが確実に装着されていないと、電源が入りません。
・光源用ランプカバーがしっかり閉まっていないと、電源が入りません。
・画面に表示されるメッセージを消す場合は、リモコンまたはコントロールパネルのいずれかのボタンを押してください。

お願い

本機の光源用ランプの中には水銀が含まれています。使用済みの光源用ランプは、地域の蛍光管の廃棄のルールに従って廃棄してください。

エアフィルターを掃除する

画面に「フィルターを掃除してください。」というメッセージが表示されたら、エアフィルターのクリーニングが必要です。
約 1,500 時間ごとにエアフィルターのクリーニングが必要です。1,500 時間は目安です。使用環境や使い方によって異なります。
エアフィルターは中性洗剤を薄めた水で洗ってから日陰で乾かしてください。

ご注意

・エアフィルターを洗うときは、エアフィルターが破損しないようにしてください。
エアフィルターの取りはずしと取り付け方法は、「光源用ランプとエアフィルターを交換し吸気口を掃除する」手順 7 ～ 10（☞ 74 ページ）をご覧ください。
・エアフィルターを取りはずすとき、本体内部にゴミなどが入らないよう十分ご注意ください。
・エアフィルターの掃除は、プロジェクターの性能の維持、また故障を防ぐという意味からたいへん重要です。掃除のメッセージが表示された場合は、すみやかにエアフィルターを掃除してください。

本機のお手入れと画面について

外装のお手入れについて

・外装の汚れを拭きとるときは、乾いた柔らかい布で拭きとってください。外装の汚れがひどいときは、薄い中性洗剤溶液を少し含ませた布で拭きとり、乾いた布でカラ拭きしてください。
・アルコールやベンジン、シンナーなどは使わないでください。表面の仕上げを傷めたり、表示が消えてしまうことがあります。
・布にゴミが付着したまま強く拭いた場合、傷が付くことがあります。
・殺虫剤のような揮発性のものをかけたり、ゴムやビニール製品に長時間接触させると、変質したり、塗装がはげたりすることがあります。

輝点・滅点について

プロジェクターは非常に精密度の高い技術で作られていますが、画面上に黒い点が現れたり、赤と青、緑の点が消えないことがあります。
また、すじ状の色むらや明るさのむらが見える場合もあります。これらは、プロジェクターの構造によるもので、故障ではありません。

保証書とアフターサービス

保証書

・この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
・所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかをお調べください。

それでも具合の悪いときは

ソニーの相談窓口にご相談ください（裏表紙）。

部品の交換について

この商品は修理の際、交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。ただし、本機には消耗部品が含まれております。保証期間中でも、長時間使用による消耗部品の交換は有料になる場合があります。
詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では本取扱説明書に記載しているすべての製品と部品（製品補修用性能部品を含む）を、製造打ち切り後８年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、ソニーの相談窓口にご相談ください（裏表紙）。
ご相談になるときは、次のことをお知らせください。
製品：VPL-VW85
製造番号：本体側面または保証書に記載されています。
故障の状態：できるだけくわしく
購入年月日：

お買い上げ店

主な仕様

システム

投影方式
SXRD パネル、1 レンズ、
3 原色液晶シャッター投射方式
LCD パネル
0.61 型（15.4 mm）
SXRD パネル、6,220,800
画素（2,073,600 × 3）
レンズ　1.6 倍ズームレンズ（電動）
f18.5 ～ 29.6 mm
F2.50 ～ 3.40
光源用ランプ
200 W 高圧水銀ランプ
スクリーンサイズ
40 ～ 300 型
（1,016 mm ～ 7,620 mm）
カラーシステム
$NTSC_{3.58}$、PAL、SECAM、
$NTSC_{4.43}$、PAL-M、PAL-N、
PAL60
自動切り換え／手動切り換え
（PAL60 は自動切り換え
のみ）
対応ビデオ信号
15 kHz RGB 、
コンポーネント　50/60 Hz、
プログレッシブコンポーネント
50/60 Hz、
480/60i、576/50i、
480/60p、576/50p、
720/60p、720/50p、
1080/60i、1080/50i、
1080/24PsF（48i）、
1080/60p （HDMI 入力端
子のみ）、
1080/50 p （HDMI 入力端
子のみ）、
1080/24p（HDMI 入力端
子のみ）、
コンポジットビデオ、
Y/C ビデオ
対応コンピューター信号
fH：19 ～ 72 kHz
fV：48 ～ 92 Hz
最高解像度 1,920 × 1,080
（HDMI 入力端子のみ）
詳細は、プリセット信号一覧
をご覧ください。（☞ 81 ページ）

入力

S VIDEO/VIDEO
（S ビデオ／ビデオ入力）
映像：ピンジャック
コンポジットビデオ 1 Vp-p
± 2 dB、同期負、75 Ω 終端
S 映像：Y/C、ミニ DIN4 ピン
Y（輝度）信号：1 Vp-p
± 2 dB、同期負、75 Ω 終端
C（クロマ）信号：（バースト
信号）0.286 Vp-p
± 2 dB（NTSC）、75 Ω 終
端または 0.3 Vp-p ± 2 dB
（PAL）、75 Ω 終端
Y P_B/C_B P_R/C_R
コンポーネント ピンジャック
同期付 Y：1 Vp-p ± 2 dB、
同期負、75 Ω 終端
P_B/C_B：0.7 Vp-p ± 2 dB
75 Ω 終端
P_R/C_R：0.7 Vp-p ± 2 dB
75 Ω 終端
HDMI　デジタル RGB
Y C_B（P_B）C_R（P_R）
INPUT A
HD D-sub 15 ピン
アナログ RGB ／コンポーネ
ント：
R/C_R（P_R）：0.7 Vp-p
± 2 dB、75 Ω 終端
G：0.7 Vp-p ± 2 dB、
75 Ω　終端

同期付 G/Y：1 Vp-p
±2 dB、同期負、75 Ω 終端
B/CB（PB）：0.7 Vp-p
±2 dB、75 Ω 終端
SYNC/HD：複合同期入力：
TTL レベル、正負極性
水平同期入力：TTL レベル、
正負極性
VD：垂直同期入力：TTL レベル、正負極性

TRIGGER 1
ミニジャック
電源オン時：DC12 V、出力インピーダンス 4.7 kΩ
電源オフ時：0 V

TRIGGER 2
ミニジャック
アナモフィックズーム時：
DC12 V、出力インピーダンス 4.7 kΩ
他のワイドモード、または電源 OFF 時：0 V

REMOTE
RS-232C:D-sub9 ピン（凹）

一般

外形寸法
470 × 179.2 × 482.4 mm
（幅／高さ／奥行き）

質量　約 12 kg

電源　AC 100 V、3.2 A、
50/60 Hz

消費電力
最大 320 W
スタンバイモード：8 W
スタンバイモード（低）：0.5 W

動作温度
＋5 ℃～＋35 ℃

動作湿度
35%～85%（結露なきこと）

保存温度
－20 ℃～＋60 ℃

保存湿度
10%～90%

付属品　リモートコマンダー
RM-PJVW85J（1）
単 3 形乾電池（マンガン）（2）
電源コード（1）
取扱説明書（1）
保証書（1）
ImageDirector3 CD-ROM（1）

本機の仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

本機は「JIS C 61000-3-2 適合品」です。

JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性―第 3-2 部：限度値―高調波電流発生限度値（1 相当たりの入力電流が 20A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

この装置は、クラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
VCCI-B

別売りアクセサリー

プロジェクターランプ
LMP-H201（交換用）
プロジェクターサスペンションサポート
PSS-H10

電源接続時のご注意

以下を満足した電源コードをお使いください。

プラグ型名	YP-359
コネクタ型名	YC-13
コード型名	VCTF
定格電圧・電流	12 A/125 V
安全規格	電安法

プリセット信号一覧

下記は、本機で投影可能な信号の種類・フォーマットの一覧表です。

これ以外の信号に対しては、正しい投影ができなくなる場合がありますので、ご注意ください。

メモリーナンバー	プリセット信号（解像度）		fH (kHz)	fV (Hz)	同期	H サイズ
1	ビデオ /60	ビデオ 60 Hz	15.734	59.940	–	–
2	ビデオ /50	ビデオ 50 Hz	15.625	50.000	–	–
3	480/60i	480/60i (720 × 480i)	15.734	59.940	SonG/Y または コンポジットシンク	–
4	576/50i	576/50i (720 × 576i)	15.625	50.000	SonG/Y または コンポジットシンク ／コンポジットビデオ	–
5	480/60p	480/60p (倍速 NTSC) (720 × 480p)	31.470	60.000	SonG/Y	–
6	576/50p	576/50p (倍速 PAL) (720 × 576p)	31.250	50.000	SonG/Y	–
7	1080/60i	1035/60i (1920 × 1035i) 1080/60i (1920 × 1080i)	33.750	60.000	SonG/Y	–
8	1080/50i	1080/50i (1920 × 1080i)	28.130	50.000	SonG/Y	–
9	1080/24PsF(48i)	1080/24PsF(48i) (1920 × 1080i)	27.000	48.000	SonG/Y	–
10	720/60p	720/60p (1280 × 720p)	45.000	60.000	SonG/Y	–
11	720/50p	720/50p (1280 × 720p)	37.500	50.000	SonG/Y	–
12	1080/60p	1080/60p (1920 × 1080p)	67.500	60.000	–	–
13	1080/50p	1080/50p (1920 × 1080p)	56.260	50.000	–	–
14	1080/24p	1080/24p (1920 × 1080p)	26.973	23.976	–	–
21	640 × 350	VGA-1 (VGA 350)	31.469	70.086	H- 正 V- 負	800
22		VESA 85 (VGA 350)	37.861	85.080	H- 正 V- 負	832
23	640 × 400	NEC PC98	24.823	56.416	H- 負 V- 負	848
24		VGA-2 (TEXT) / VESA 70	31.469	70.086	H- 負 V- 正	800
25		VESA 85 (VGA 400)	37.861	85.080	H- 負 V- 正	832

メモリーナンバー	プリセット信号（解像度）		fH (kHz)	fV (Hz)	同期	H サイズ
26	640 × 480	VESA 60	31.469	59.940	H- 負 V- 負	800
27		Mac 13	35.000	66.667	H- 負 V- 負	864
28		VESA 72	37.861	72.809	H- 負 V- 負	832
29		VESA 75（IBM M3）	37.500	75.000	H- 負 V- 負	840
30		VESA 85（IBM M4）	43.269	85.008	H- 負 V- 負	832
31	800 × 600	VESA 56	35.156	56.250	H- 正 V- 正	1024
32		VESA 60	37.879	60.317	H- 正 V- 正	1056
33		VESA 72	48.077	72.188	H- 正 V- 正	1040
34		VESA 75（IBM M5）	46.875	75.000	H- 正 V- 正	1056
35		VESA 85	53.674	85.061	H- 正 V- 正	1048
36	832 × 624	Mac 16	49.724	74.550	H- 負 V- 負	1152
37	1024 × 768	VESA 60	48.363	60.004	H- 負 V- 負	1344
38		VESA 70	56.476	70.069	H- 負 V- 負	1328
39		VESA 75	60.023	75.029	H- 正 V- 正	1312
45	1280 × 960	VESA 60	60.000	60.000	H- 正 V- 正	1800
47	1280 × 1024	VESA 60	63.974	60.013	H- 正 V- 正	1696
50	1400 × 1050	SXGA ＋	65.317	59.978	H- 負 V- 正	1864
55	1280 × 768	1280 × 768/60	47.776	59.870	H- 負 V- 正	1664
56	1280 × 720	1280 × 720/60	44.772	59.855	H- 負 V- 正	1664

入力信号種別ごとの対応プリセットメモリーナンバーについて

アナログ信号

信号	プリセットメモリーナンバー
ビデオ信号（VIDEO, S VIDEO 端子）	1 ～ 2
コンポーネント信号（INPUT A, Y PB/CB PR/CR 端子）	3 ～ 11
ビデオ GBR 信号（INPUT A 端子）	3 ～ 11
コンピューター信号（INPUT A 端子）	21 ～ 39、55 ～ 56

デジタル信号

信号	プリセットメモリーナンバー
コンポーネント信号（HDMI 1、2 端子）	3 ～ 8、10 ～ 14
ビデオ GBR 信号（HDMI 1、2 端子）	3 ～ 8、10 ～ 14
コンピューター信号（HDMI 1、2 端子）	10 ～ 13*、26、32、36、37、45、47、50、55

* デジタル入力のコンピューター信号の中には、コンポーネント信号あるいはビデオ GBR 信号のプリセットメモリーナンバーとして表示される入力信号があります。

入力信号と調整・設定項目

メニューによっては、入力信号の種類によって調整／設定できる項目が異なります。詳しくは下の表をご覧ください。調整／設定できない項目はメニューに表示されません。

画質設定メニュー

項目	入力信号			
	ビデオ信号	コンポーネント信号	ビデオ GBR 信号	コンピューター信号
アドバンストアイリス	○	○	○	○
ランプコントロール	○	○	○	○
フィルムプロジェクション	○	○	○	×
モーションエンハンサー	○	○	○	×
コントラスト	○	○	○	○
明るさ	○	○	○	○
色の濃さ	○（白黒を除く）	○	○	×
色あい	○（NTSC3.58/NTSC4.43 のみ、白黒を除く）	○	○	×
色温度	○	○	○	○
シャープネス	○	○	○	×
NR	○	○（プリセットメモリナンバー 3、4、7、8、9 のみ）	○（プリセットメモリナンバー 3、4、7、8、9 のみ）	×
MPEG NR	○	○	○	○
フィルムモード	○	○（プリセットメモリナンバー 14 を除く）	○（プリセットメモリナンバー 14 を除く）	×
黒補正 *1	○	○	○	×
白補正 *1	○	○	○	×
ガンマ補正 *1	○	○	○	○

項目	入力信号			
	ビデオ信号	コンポーネント信号	ビデオ GBR 信号	コンピューター信号
x.v.Color	○	○	×	×
カラースペース	○	○	○	○
RCP	○	○	○	○

○： 調整／設定できる項目　　×： 調整／設定できない項目

スクリーン設定メニュー

項目	入力信号			
	ビデオ信号	コンポーネント信号	ビデオ GBR 信号	コンピューター信号
ワイドモード	○	○	○	○ *3
オーバースキャン	×	○	○	×
スクリーンエリア *2	×	○（プリセットメモリーナンバー 7、8、9、12、13、14 のみ）	○（プリセットメモリーナンバー 7、8、9、12、13、14 のみ）	×
画面位置 上下 *4	○	○	○	○
縦サイズ *4	○	○	○	×
APA	×	×	×	○ *5
フェーズ	×	×	×	○ *5
ピッチ	×	×	×	○ *5
シフト	×	○ *5	○ *5	○

○： 調整／設定できる項目　　×： 調整／設定できない項目

*1：「x.v.Color」の設定が「切」のときのみ設定できます。

*2：「スクリーン設定」メニューの「オーバースキャン」が「入」で、かつ「ワイドモード」が「フル」のときのみ設定できます。

*3：コンピューターの入力信号の場合、縦横比が 16:9 のときおよび 16:9 よりも横長のときは設定できません（「フル 1」固定となります）。

*4：「ワイドモード」で「ズーム」を選択したときのみ設定できます。

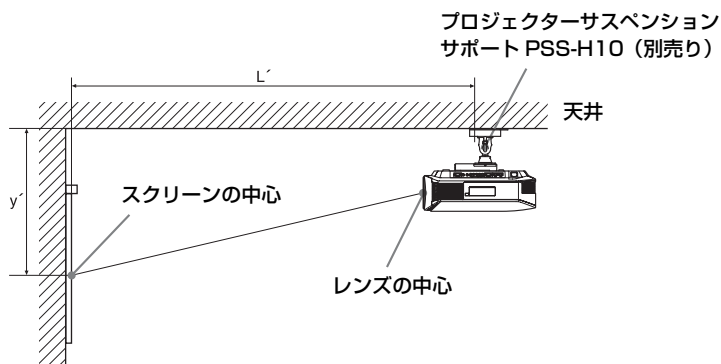
*5：アナログ信号の場合のみ設定できます。

ご注意

HDMI などのケーブルを接続した際、「情報メニュー」（☞ 61 ページ）およびデジタル信号（☞ 83 ページ）にて信号種類を確認して、調整 / 設定できる項目を確認してください。

天井つり設置

本機を天井へ取り付けてご使用の場合は、プロジェクターサスペンションサポート PSS-H10 をご使用ください。投射距離は以下の通りです。

L’ : スクリーンから天井用マウントブラケットの取り付け穴（前面）までの距離
y’ : 映像が切れない状態での天井からスクリーンの中心までの距離

16:9 スクリーンサイズ使用時

投影サイズ SS（型）		40	60	80	100	120	150	200	250	300
（mm）		1016	1524	2032	2540	3048	3810	5080	6350	7620
L’	最小値	1385	2008	2632	3256	3879	4814	6373	7932	9491
	最大値	2013	2955	3896	4837	5779	7190	9544	11897	14250
y’	最小値	249	374	498	623	747	934	1245	1557	1868
	最大値	592	754	916	1078	1240	1483	1887	2292	2697

単位：mm

設置位置の計算方法

L’ 最小値 =31.1781 × SS + 137.7

L’ 最大値 =47.0644 × SS + 130.8

y’ 最小値 =6.2263 × SS

y’ 最大値 =8.0942 × SS + 268.5

4:3 スクリーンサイズ使用時

投影サイズ SS（型）		40	60	80	100	120	150	200	250	300
（mm）		1016	1524	2032	2540	3048	3810	5080	6350	7620
L’	最小値	1664	2427	3190	3953	4717	5861	7769	9677	11585
	最大値	2435	3587	4739	5891	7043	8771	11651	14531	17411
y’	最小値	305	457	610	762	914	1143	1524	1905	2286
	最大値	665	863	1061	1259	1457	1754	2250	2745	3240

単位：mm

設置位置の計算方法

L’ 最小値 =38.1569 × SS + 137.7

L’ 最大値 =57.5992 × SS + 130.8

y’ 最小値 =7.62 × SS

y’ 最大値 =9.906 × SS + 268.5

プロジェクターサスペンションサポート PSS-H10 の取り付けかた

天井への設置に関して詳しくは、PSS-H10 の取付説明書をご覧ください。また、取り付けは必ずソニーの相談窓口にご相談ください。

ここでは、本機を PSS-H10 を使って天井に取り付けた場合の設置寸法について説明します。

上から見た図

プロジェクターのレンズとスクリーンが平行になるように設置してください。

前から見た図

横から見た図

索引

五十音順

あ

か

さ

た

な

は

ま

ら

わ

アルファベット順

商標について

「PS3」は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。

HDMI、HDMI ロゴおよび High Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC 社の商標または登録商標です。

HDMI 機器制御は、HDMI で規格化されている HDMI CEC（Consumer Electronics Control）を使った機器間相互制御の機能です。
本機は、HDMI の DeepColor、x.v.Color、LipSync、コンピューター入力信号に対応しております。また HDCP に対応しております。